

みんなの
ための
学校長会に

茨城県 学校長会広報

第235号

発行者
茨城県学校長会
会長 田邊 一男
事務局
〒311-1125
水戸市大場町933-1
教育プラザいばらき内
☎ 029-269-1300
FAX 029-269-1304

第2期 中期教育ビジョン

特集 各部・各委員会の構想 新会員紹介



統合～仲間・絆～

目次

- 表紙写真に寄せて……………1
- 平成二八年度茨城県学校長会活動目標及び第2期中期教育ビジョン(3か年活動計画)……………2
- 第2期中期教育ビジョン……………3
- 会長挨拶……………4
- 今年度の活動の方向性……………4
- 特集「各部・各委員会の構想」……………5
- 特別寄稿「チーム学校」と就学前教育の充実……………6
- 課題……………8
- 市町村教育委員会と学校長会提言二題……………9
- 経営研究「創意と活力に満ちた学校経営」……………11
- 大会に参加して「全連小・関プロ小・全日中・関地区中」……………14
- 特集「新会員の抱負」……………16
- 再任会員名簿・本年度学校長会役員……………30

学校統合、三年目を迎えて

行方・玉造小

片岡 満

本校は、学校が統合し三年目を迎えました。六つの小学校の統合ということで、開校初年度は、様々な課題がありました。一つ一つ克服し、二年目には反省を加えて改善してきました。

そして、三年目を迎えた今、子供も保護者も職員も、新たな学校を自らの手で作くりあげたという自信と誇りがもてるようになり、仲間意識の高まりと強い絆が感じられるようになりました。

毎朝、子供たちが一八台のバスで登校する様子に、明るさや楽しさを感じられ、嬉しく思います。

平成28年度活動目標及び第2期中期教育ビジョン（3か年活動計画）

1 基本方針とは

これまで県学校長会が取り組んできた業績と精神を継承し、県学校長会の方向性を示したものです。

2 活動目標とは

基本方針を受けて平成28年度に取り組む目標です。①～⑤は重点となります。また、※印は今年度の「大会宣言」を受けたものです。

3 中期教育ビジョンとは

基本方針を受けて、中長期間にわたり活動し評価、検証を行うべき内容と、短期間の活動で評価、検証すべき内容があることに鑑み、3か年活動計画（H28～H30）として策定したものです。また、県学校長会の各組織（専門委員会や支部学校長会）間での連携した活動を通して、校長一人一人の参画型の取組を推進し、結果として「われら意識」を高めていけるよう工夫するためのビジョンです。

【基本方針】

1 学校からの教育改革を目指す学校経営の推進

2 学校経営の質を高める研究の推進

3 県学校長会の組織運営の活性化

4 教育諸条件の整備

5 関係機関・団体との連携強化

【平成28年度活動目標】

- ① 第2期中期教育ビジョン（平成28～30年度）の推進
- ② 少人数指導教育（少人数学級）^{注1}の調査研究の充実
- 教職員定数、学級編制等の改善についての調査研究の充実

- ③ 平成27年度の提言・提案を生かした学校経営と小中学校長研究協議会の一層の充実
- 教職員の資質能力の向上と人材育成（※「信頼される教職員を目指す」）
- 学校の危機管理体制の強化（※「子供の安全・安心を確保する」）
- 新しい教育制度や新学習指導要領を踏まえた学校経営の推進

- ④ ブロック協議会及び小・中学校部会の活性化による情報共有と行動連携（われら意識の高揚）
- 学校再編を反映した組織の見直しと活性化

- ⑤ 勤務時間等に関する調査と適正化に向けた組織的な取組の推進
- 県教育行政機関、教育関連諸機関との連携や情報交換
- 整備・充実のための取組の強化

- 全国連合小学校長会・全日本中学校長会及び県教頭会等との連携強化
- 子ども支援茨城連絡会^{注2}との連携活動の強化
- 教育振興大会の開催と教育の充実に対する世論の喚起

【第2期中期教育ビジョン】

平成28年度

平成29年度

平成30年度

- 少人数指導教育（少人数学級）の充実や教員が子供と向き合う時間の確保によるきめ細かな質の高い教育を推進する。
⇒ 毎年度の要望書への反映，答申（まとめ）の作成（平成30年度）
- 校長の経営力の向上に向けた取組を推進する。
⇒ 校長の力量アップと人材育成

第2期中期教育ビジョンについて

〈中長期的な課題〉

- 少人数指導教育（少人数学級）の充実や教員が子供と向き合う時間の確保による、きめ細かな質の高い教育を推進する。

各年度に実施した調査をもとに、一学級35人以下の少人数指導教育（少人数学級）の効果を検証する。
また、勤務時間等の調査をもとに、適正化のための具体的な手立てを検討する。

⇒ 毎年度の要望書への反映，答申（まとめ）の作成（H30年度）

平成28年度	平成29年度	平成30年度
経年調査 ・基礎調査「学級数等に関する調査」 ・調査Ⅰ「少人数学級に関する調査」 ・調査Ⅱ「教職員定数に関する調査」 ・調査Ⅲ「教育環境等に関する調査」 ・重点調査「勤務時間等に関する調査」	経年調査 ・基礎調査「学級数等に関する調査」 ・調査Ⅰ「少人数学級に関する調査」 ・調査Ⅱ「教職員定数に関する調査」 ・調査Ⅲ「教育環境等に関する調査」 ・重点調査「勤務時間等に関する調査」	経年調査 ・基礎調査「学級数等に関する調査」 ・調査Ⅰ「少人数学級に関する調査」 ・調査Ⅱ「教職員定数に関する調査」 ・調査Ⅲ「教育環境等に関する調査」 ・重点調査「勤務時間等に関する調査」

【調査の視点】・茨城方式（小3～小6，中1）の評価 ・勤務実態 ・小学校における専科教員の配置

- 校長の経営力の向上に向けた取組を推進する。

自校の実情（教職員の現況，保護者や地域の環境など）を生かすとともに，課題を把握し，組織としての取組を推進するための実践的経営力を一層高める。また，関係機関との連携，研修会の在り方を検討する。

⇒ 校長の力量アップと人材育成

平成28年度	平成29年度	平成30年度
・小中学校長研究協議会の選択制課題での継続実施 ・提言・提案の作成 ・教育研究会との連携（情報の共有） ・会員相互の情報共有と行動連携	・小中学校長研究協議会の選択制課題での継続実施 ・提言・提案の作成 ・教育研究会との連携（情報の共有） ・会員相互の情報共有と行動連携	・小中学校長研究協議会の選択制課題での継続実施 ・提言・提案の作成 ・教育研究会との連携（情報の共有） ・会員相互の情報共有と行動連携

【平成28年度の課題】

- (小中別) ○教育課程・特色ある教育活動（カリキュラムマネジメント）○学力向上 ○学校評価
○業務の効率化（勤務時間等）○進路指導（キャリア教育）○生徒指導
- (小中合同) ○教員評価 ○スクールコンプライアンス ○教員研修・人材育成 ○小中一貫・連携交流
○学校体育・学校健康教育 ○特別支援教育（インクルーシブ教育）○道徳教育
○教職員のメンタルヘルス ○リスクマネジメント ○防災・安全教育 ○部活動
○家庭・地域との連携

〈評価・検証〉

- 会員に県学校長会で作成した要望や提言等を公表するとともに，各取組についての「アンケート調査」を実施し，評価・検証を行い改善に資する。

⇒ ① 小中部会，ブロック，各専門委員会ごとに，内容や時期を検討し，必要に応じてアンケート調査を実施する。結果を踏まえ，今後の方向等を検討する。

② アンケートの回答率（100%）を目指し，「われら意識」の高揚を図る。

〈短期的な課題〉

- 今日の課題に向けての必要に応じた取組を推進する。 ⇒ 焦点を絞り，組織が連携した取組

【取組の視点(例)】・いじめ問題 ・土曜授業の実施 ・スクールコンプライアンス ・管理職手当 など

注1)「少人数指導教育」とは，一学級35人以下の「少人数学級」及び特定の教科における「少人数指導」の両面での取組を指すものです。県学校長会においては少人数学級について調査研究を推進するものです。

注2)「子ども支援茨城連絡会」とは，教育関係23団体で構成される全国組織「子どもたちの豊かな育ちと学びを支援する教育関係団体連絡会」の下部組織であり，現在のところ，本県では茨P連，県学校長会，茨教組の三者で構成されている子供を支援する連絡会です。

今こそ、子供と向き合う 時間の確保を！

茨城県学校長会
会長 田邊 一男

第2期中期教育ビジョンが今年度からスタートした。きめ細かな質の高い教育を推進するために、少人数指導教育（少人数学級）の充実に関する研究を継続するほか、「子供と向き合う時間の確保」のための取組を推進するという新たな視点を加えた。グローバル化が急速に進展する中であって、我々は、将来を担う子供たちの教育が最重要課題であるとの認識に立ち、「社会に開かれた教育課程」の実現と、いわゆる「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善等を目指そうとする国の動きも協働して、きめ細かな質の高い教育そのものについて研究を深める必要がある。

さらには、大量退職時代の今こそ、教職というやりがいと夢にあふれる職業の後継者となる若い教員志願者の養成・育成に、社会全体が力を注がねばならない。

ある先輩は、「日本という国の国力を左右する人材育成の役割を担っているのは、教育界という巨大企業なのである」との持論を展開する。今こそ我々は、教育界の論理だけでは語れない部分があることを知り、教育者でなければできない不易の仕事に誰にも負けない専門家集団としての誇りと自負をもって邁進したい。そのために今しつかりと子供と向き合いたい。

今年度の活動の方向性

平成二八年度茨城県学校長会総会

学校・家庭・地域それぞれが果たすべき役割を改めて見直し、社会全体で子供たちを守り育てようとするとき、学校からの教育改革を基本方針に掲げる茨城県学校長会は、「理論も実践もある有言実行の教育の専門家集団」として、その中心的役割を担っていく覚悟が必要である。

このときに当たり、私たち校長は、家庭や地域社会、関係諸機関との連携・協力を密にし、一人一人が輝く学校づくりを推進し、子供たちの自主性・自立性を育む使命と責務がある。

そのため、私たち校長は、学校経営のビジョンを明確にし、具体的なミッションのもと、積極的なアクションを起こしつつ、創意と活力に満ちた学校経営に努め、学校からの教育改革を推進することで、県民の信頼と期待に応えなければならない。

茨城県学校長会は、教育基本法等を踏まえ、先達の築かれた業績と精神を継承し、英知と情熱を結集して、基本方針と第2期中期教育ビジョンに示した今年度の活動目標の具現化に努める。

【今年度の重点】

一 第2期中期教育ビジョンの推進

茨城県学校長会は、総務員を中心に行ってきた第1期中期教育ビジョン（平成二五～二七年度）の評価・検証をもとに、会員の声を取り入れた新たな第2期中期教育ビジョンを策定した。

今年度は、新たな課題として掲げた、教員が子供と向き合う時間を確保し、きめ細かな質の高い教育を推進できるよう、従来の調査に加え勤務時間等に関する重点調査を実施し、業務の効率化のための視野を広げるとともに、より精度の高い要望等につなげていけるようにする。

二 少人数指導教育（少人数学級）の調査研究の充実

専門委員会は、茨城県教育研究会の組織活性化委員会が設置する課題検討委員会と連携協力し、少人数指導教育に関する調査研究を継続する。学力向上及び生徒指導上の成果等を検証するとともに、少人数指導教育に係る特色ある学校経営を広く紹介したり、教育行政に関する要

望等につなげたりする。

三 平成二七年度の提言・提案を活かした学校経営と小中学校長研究協議会の一層の充実

平成二五年度から実施している全員参加のワークショップ型の研修を、分科会テーマの改善等を図りつつ、今年度も同時期に実施する。昨年度は、期限までの自己選択によるテーマ選択率一〇〇％を達成し、事後アンケートでは、「情報の共有が図れた」（九七・六％）、「内容が充実した」（九八・二％）などの好結果が得られた。協議内容等をもとに四つの視点からまとめられた提言・提案は、今年度、我々校長が経営力向上に向けて県内すべての学校において取り組むべき努力目標であり、各教育行政機関等への要望・提案につながるものである。

四 ブロック協議会及び小中部会の活性化による情報共有と行動連携（われら意識の高揚）

昨年度の教育情報ネットワークを活用した全会員に対する「評価アンケート調査」（以下、「アンケート調査」という。）において、「ブロックや郡市校長会の活動は県学校長会の方針に沿っている」とする回答は九五・四％と高い。今年度も、各ブロックや小中部会での協議

五 勤務時間等に関する調査と適正化に向けた組織的な取組の推進

昨年度のアンケート調査において、校長会として取り組んでほしい課題を整理分類すると、「勤務時間の適正化」が最多であった。OECDによる国際教員指導環境調査（TALIS 2013）において、日本の教員の勤務時間が参加国中最長であるとの結果も出ているが、我々校長は、教職員の勤務実態が実際にはこれより過酷な状況にあることを実感しており、メンタルヘルスに係る問題についても懸念しているところである。

そのために、小中学校それぞれの校種において、家庭へ持ち帰る仕事の量や休日出勤の実態、勤務時間外の生徒指導に係る対応状況等を含めた教職員の勤務実態等を調査し把握する。具体的なデータをもとに、校長は学校の最高責任者として改めて業務の効率化の視点に立った学校経営の在り方を見直すとともに、茨城県学校長会という組織が、教職員の勤務時間等の適正化に向けてやるべきことは何なのかについて検討する。

内容を、県学校長会全体で共有するとともに、各学校現場とも共有し、行動連携を一層推進する。

各部・各委員会の構想

確かな教育の成果を求めて

小学校部会



これからの学校像を描く

部会長 小島 睦
(水戸・三の丸小)

今年度は、県内で二校の義務教育学校が設置された。改めて、学校長会における小学校、中学校両部会の位置付けを考える良い機会となった。小学校部会としては、義務教育九年間の連続性を大切にし、その中で小学校(義務教育学校の前期課程)における六年間に、どのような教育環境を用意し、児童にどのような力をつけていくべきかなど、議論が深まることを期待したい。

さて、今年度の主な取組の一つとしては、「第2期中期教育ビジョンの推進」について、小学校ならではの視点をもって取り組んでいくことである。その際には、「全連小や関プロ小との連携」により、国の動向や各都道府県の情報を得ながら、本県としての小学校経営を考えて

いく必要がある。先日の関プロ小東京大会では、本県を代表して、県北・松岡小の國井徹校長先生、県南・小張小の堀江玲子校長先生、県西・上大野小の滝本秀夫校長先生にご提案いただいた。各校長先生の日々の実践の積み重ねに敬意を表するとともに、当日の発表を支えていただいた三名の司会の校長先生に感謝を申し上げたい。

さらに、小学校教育を義務教育九年間の中に位置付け、県の施策等を踏まえながら、様々な提案・提言が得られるよう、「小学校研究協議会の充実」を図っていく。これらの小学校部会の活動充実に当たっては、次の六名の企画実行委員の方々にお骨折りをいただくことになる。(◎委員長)

◎磯田 洋 (中央・河和田小)

落合 武 (県北・高萩小)
菅谷 弘史 (県東・鉾田北小)
森永 祥仁 (県南・阿波小)
小坂 誠二 (県西・猿島小)
部会の推進役として活躍いただきたい。

五月の全連小総会では、馳文部科学大臣のご挨拶、さらには文科省各課からの行政説明をい

中学校部会



「勤務時間の適正化」

部会長 田邊 一男
(水戸・第一中)

第2期中期教育ビジョンの新しい視点に「子供と向き合う時間の確保」があり、今年度の重点目標には、「勤務時間等に関する調査と適正化に向けた組織的な取組」が取り上げられている。

勤務時間に関しては、特に中学校部会において関心の高いテーマであろう。昨年度も、評議員研修会後に開催された中学校部会においては、毎回勤務時

間と部活動の在り方などが活発に議論された。一部のマスコミが「ブラック部活」などのキーワードをつくり、今の部活動の果たしている、ほかに替わることのできない重要な役割そのものを否定するよ

うな安易な解釈に結びつけようとする動きは断じて看過できない。しかしながら、その一方で顧問によっては勝利至上主義を掲

げ、教育活動の一環として位置付けられている部活動を自分本位の解釈で私物化している実態があるとの報告も聞く。茨城県教育庁保健体育課発行の「望ましい運動部活動の在り方(三訂版)」には、「生涯にわたってスポーツに親しむ能力や態度を育て、体力の向上や健康の増進を図るだけでなく、学級や学年を離れて生徒が自発的・自主的に活動を組織し展開することにより、生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感などを育成するとともに、仲間や教師(顧問)との密接な触れ合いの場として大きな意義を有する」との記載があることを確認したい。

また、超過勤務の実態、あるいは風評によって、教員になりたいという若い志願者が減り、教育の質が低下することが懸念されている。子供たちに夢をもつことの大切さを訴えるとき、教師として働くという夢を実現させた私たち自身の誇りと責任、つまりは在り方生き方そのものが問われている。

子供たちのため、先生方のために、夢をもって、今仕事をしているかと改めて自分に問いたい。

特別寄稿



「チーム学校」と

就学前教育の充実

教育庁学校教育部義務教育課

副参事 安原

優

我が国の状況を見ますと、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境等が著しく変化しています。約三〇年前には存在しなかつた携帯電話やタブレットPC等の電子機器の進化ぶりを例にしますと、その変容ぶりが急激であることがわかります。

今後さらに変化が激しくなると考えられる時代を担う子供たちは、基礎となる学力、体力をしつかりと身に付けた上で、想定外の事象や未知の事象に対して主体的に解決していくこうとする力や他者に共感できる感性、思いやり、コミュニケーション能力などを培っていく必要があらわれます。また、その実現のために、学校や教員が心理や福祉等の専門スタッフ等と連携・分担する「チーム学校」の体制整備が求められていることは、皆さんご承知のとおりです。

要件は①共通の目的、目標を定めていく②仲間意識が強い③個々が自分の考えや働き方に責任をもつ④集団に対して⑤個々が責任をもつ⑥個々が自立している、などがあげられます。当初は、単なるグループであった集団が、お互いを仲間として認め、協働意識が育まれることで、グループとは一線を画したチームとしての集団が作られていくと考えます。

「チーム学校」を実現していくためには、校長先生や園長先生方の強いリーダーシップと学校のマネジメント機能の強化が必要となります。

これまで、保育と教育という言葉で、とすれば保育所、幼稚園、認定こども園、小学校はそれぞれに分けて考えられてきた面もあるかと思えます。しかし、子供たちの学びや成長は連続しています。同じ子供たちを預かる幼保小、さらには同地区の中学校がチームをつくり、よい質の高い就学前教育の実現を目指していきたいと考えます。

校長先生方からの教職員や関係者への積極的な声かけにより、仲間意識を高めながら、子供たちのよりよい成長のために、就学前教育への「チーム」での取組をお願いいたします。

それでは、「チーム学校」の「チーム」とは、どのような組織体制を指すのでしょうか。野球やサッカーなどのスポーツチームを参考に考えると、その

この事業を進めていく上で大切なのは、幼保小が一体となつて就学前教育を充実させていく、つまり「チーム学校」の考え方であると思います。

「チーム学校」とは、どのような組織体制を指すのでしょうか。野球やサッカーなどのスポーツチームを参考に考えると、その

「チーム学校」とは、どのような組織体制を指すのでしょうか。野球やサッカーなどのスポーツチームを参考に考えると、その

「チーム学校」とは、どのような組織体制を指すのでしょうか。野球やサッカーなどのスポーツチームを参考に考えると、その

「チーム学校」とは、どのような組織体制を指すのでしょうか。野球やサッカーなどのスポーツチームを参考に考えると、その

行 財 政



第2期中期教育ビジョンの具現化を目指して

委員長 住谷 正己

学校長会では、これまで三年間取り組んできた第1期中期教育ビジョンの評価検証をもとに新たに第2期中期教育ビジョンを策定し、本年度からスタートしました。

行財政委員会では、これまでの重点目標であった「少人数指導教育（少人数学級）」の充実のための調査研究」に継続して取り組むとともに、新たに重点目標とされた「勤務時間に関する調査と適正化に向けた組織的な取組の推進」に向け、調査研究委員会と連携し、茨城県教育委員会への要望事項を検討していきたいと考えています。

今年度につきましては、六月と二月にアンケート調査を実施しますのでご協力願います。

一 組織
委員長 住谷 正己(本 彦中)
副委員長 深見 晋(本 笠原中)
副委員長兼幹事 陶 慶一(本 上野小)
幹事 大高 正志(本 千波小)
同 寺門 南(本 堀原小)
小委員代表 櫻井 康夫(本 袴栗小)
同 飯村 稔(本 富小)

二 活動目標
平成二八年度から始まる第2期中期教育ビジョン(三年間)において策定された重点施策について、第1期中期教育ビジョンの成果と課題を踏まえて、調査・分析・検証を行い、県教育庁への要望につなげ「学校からの教育改革」をより推進していく。

三 活動内容
(一) 少人数指導教育に関する調査研究と検証
(二) 教職員定数に関する調査研究と提言
(三) 教育環境等の調査研究と検証
(四) 教育研究会との連携

課題



一人一人にやさしい学校
を目指して

学校長会副会長 立野 健二
(神栖・息栖小)

平成二四年に「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進」が打ち出され、本年四月には、障害者差別解消法がスタートし、学校における特別支援教育の一層の充実が求められている。

本校は、全校児童七二九名の大規模校。特別支援学級は七(知的三・自閉情緒四)に加えて通級指導三(言語一・発達二)の一〇学級になる。利用する児童は百名近い(全体の約一三%)。このような状況下、特別支援コーディネーターを核に「息栖小の子供全員を全職員で育てる」をモットーに特別支援教育の充実に取り組んでいる。

まずは就学前から中学校進学まで一貫した指導・支援ができるよう、未就学児への教育相談・教育支援、在学児童の就学先決定、個別の教育支援計画と指導計画の策定等を行っている。次に、合理的配慮の決定と提供である。人的確保、施設設備の整備と共に、個別の教育支援

に次の改善策に取り組んだ。

一つ目の課題に対しては、全家庭に理解啓発のための資料を配付するとともに、教育相談等を通して、個別の支援の有効性を実感できるようにし、正式入級へつなげている。

二つ目の課題に対しては、児童への指導と併せて、保護者への応援と丁寧な支援を心がけているが、市福祉部に積極的に支援を呼びかけている。

三つ目の課題に対しては、全職員が共通の『特別支援教育関係資料ファイル』を持ち、折に触れ短い時間でも効率的に学べるようにしている。

計画に応じた柔軟な教育課程の編成や教材等に配慮をしている。さらに、多様な学びの場の整備と外部機関との連携である。人的資源(市介助員や市学習指導補助員等)の活用。SCや特別支援学校のセンター的機能の活用。諸機関(児童相談所、民生委員、市こども課、幼児の教育相談教室等)との連携を通し、個々(保護者も含む)の教育的ニーズに応じた支援を積極的にを行っている。

そして、職員の専門性向上に最も重きを置いている。学校内外の研修によるスキルアップはもとより、必要に応じて医師の助言を受け、支援の在り方を研鑽している。それでも尚、次の課題が残る。一つ目は、一部保護者からの特別支援学級への偏見。二つ目は、自身の障害や経済的な問題を抱える保護者への支援等である。三つ目は、校内研修をより充実させるための時間の確保と工夫である。

そこで、校長として職員と共

今後は、障害者差別解消法の施行に伴い、各学校では様々な対応が求められるよう。しかし、心配はない。常軌を逸した無理難題を受け入れる必要はない。ただ校長として、可能な限りの、考え得る限りの支援を積極的に講じる覚悟があればよい。コーディネーターを信頼し応援し、校内体制を十分に機能させる。すべての教職員が障害をよく理解し、適切に丁寧に接していることで、子供の生活も安定し、保護者からも感謝の声が多く届いている。私は、やさしく丁寧な学校は格好いいと思う。そんな学校を目指して止まない。

Webページ



Webページの効果的な
活用を目指して

委員長 大芝 静香

一 組織

学校長会Webページについては、五つの専門委員会、小・中学校部会、小中学校研究協議会、五ブロック三九の支部のページ等により構成され、情報発信、資料の掲載等に活用しています。今年度はリニューアルし、より見やすく活用しやすいWebページになりました。さらに情報を充実させ、Webページの効果的な活用を目指していきます。

二 活動内容

- 委員長 大芝 静香
 - 副委員長 磯崎 則男(不韮小)
 - 同 白土 由一(笠友部小)
 - 幹事 稲田 樹男(ひ佐野中)
 - 同 佐川 雅美(東長岡小)
 - 委員 原田 薫(藤原小)
 - 同 萩谷 和昭(矢野小)
 - 同 佐々木 均(神深芝小)
 - 同 和田 雅彦(稲浮島小)
 - 同 片倉 順(下毛田中)
- 県学校長会Webページの内容及び更新
・利用数を増やす方法の検討
・ブロック、郡市の情報発信
- 県学校長会Webページの運営及び運営方法の改善
・更新方法等の研修等
・更新責任者の明確化
○教育プラザいばらきWebページ管理委員会等との連携協力



学校長会トップページ

市町村教育委員会と学校長会

小美玉市

教育委員会との連携について

小美玉・玉里中
羽鳥 文雄

本市学校長会は、小学校二二校、中学校四校の計一六校で構成されている。また、市教育委員会は、学校教育課、施設設備課、生涯学習課、学校給食課、スポーツ振興課、指導室で構成され、いずれの課も学校教育と密接な関係をもっている。本市では、学校教育プランとして、

- おおきく輝く人づくり
 - 魅力あふれる学校づくり
 - たゆまず励む教員づくり
- を掲げ、その方針のもと教育委員会と学校長会が連携した教育実践を行っている。
- 学校長会では、毎月の校長研修会を始め、その他必要に応じて研修をもち、今日的課題解決のための情報連携や行動連携を行っている。その中で、教育長や指導室長より、教育行政の施策や校長としてやるべきこと、危機管理への対応等をご指導いただいている。

教育委員会と学校長会との連携については、次のような取組が本市の特色となっている。

一 各事業への人的配置

- (一) 学校支援対策事業として、授業での学習支援や学習相談の充実のために学力向上支援員（教員免許保有者）を配置していただき、その活用を通して確かな学力の向上を図っている。
- (二) S S W 配置事業では、三名の臨床心理士等を各学校に配置していただき、学校と保護者、医療機関等との連携を図りながら、発達障害や不登校等の児童生徒への支援、保護者面談、職員

の対応協議等を行っている。その他、複式学級を有する小規模校へ市独自で非常勤講師を配置していただき、複式学級の指導を効果的に行っている。

二 特色ある連携事業

本市の特色ある連携事業としては、「自然教室」がある。市内小学校一二校を二班に分け、夏期休業中に二泊三日で実施している。（校長も団長として参加。）赤城山登山やキャンドルサービス、他校との交流活動等

を行い、児童の自立心や社会性を育むよい機会となっている。

その他、「市内や近隣市町村の中学二年生を対象とした英語プレゼンテーションコンクール」や「コミュニケーション・スクリーン推進事業」など、今日的課題や地域の特性等を考慮した事業にも取り組んでいる。

こうした事業推進のためには、教育委員会から指示を待つような「受け身」的な姿勢でなく、学校長会自らが主体的に課題解決に取り組んでいくことが、学校長会に課せられた大きな役割であると考え。今後、児童生徒の健全育成、本市教育や各学校の活性化、今日的課題の解決等に向けて、教育委員会と連携を強化しながら学校経営に努めていきたい。

高萩市

市教育委員会との連携について

高萩・高萩中
井上 良治

高萩市の学校長会は、小学校四校、中学校五校の計九校で構

成されている。

本市学校長会は、毎月、市教育長をはじめ教育部長、教育総務課長、生涯学習課長、学校教育課長及び課長補佐が同席し、定例の研修会を開催している。

市教委からご指導をいただく場面では、昨年度から、市立幼稚園四園の園長も加わり、「萩っ子」育成のための課題の共有、諸問題の改善や解決へ向けて協議し、幼小中連携の推進のための情報交換を行っている。

一 市及び学校課題の解決へ向けた取組

市教委の指導のもと、平成一八年度から二六年度まで、学力向上・体力向上・読書意欲の向上・不登校者の減少・挨拶の実践・家庭学習の習慣化などの市統一の課題と共に学校独自の課題の目標値を設定し、達成のための対応策に取り組んできた。学校改善プランの先駆けともいえるいわゆる『スクールマニフェスト』と称するものである（幼稚園は、二四～二六年度、同様の取組）。その取組や達成状況に対して、市教委の助言指導をいただきながら一定の成果を上げてきた。

昨年度からは、学校独自の課題のみに委ねられ、学校主体のRPDCAの実践と校長の経営力の手腕が問われている。

二 校種間連携「ユニット5」

地域の子供たちの成長・発達を、保育所・幼稚園・小学校・中学校・家庭（地域）が連携を図りながら学力の向上、小一プロブレムや中一ギャップの解消に取り組んでいる。五つの小学校区の保・幼・中を一つのユニットとして、授業参観・出前授業・体験授業などの学習交流、社会奉仕・勤労奉仕・給食体験などの体験学習、挨拶運動などにおいて、連携した活動を取り入れ、成果を上げている。

今年度は、市教委の提言により、「共育（知）」「響育（徳）」「強育（体）」「郷育（郷土愛）」の四柱を軸に、保幼小中が連携し、『高萩市のきょういく』の充実と真摯に取り組んでいる。

平成二九年度には、君田小と君田中の廃校に伴い、それぞれ松岡小・松岡中に統合される。市内七校と組織がさらに小さくなり、課題も出てきているが、教育委員会と学校長会の連携をさらに密にし、互いの顔が見える長所を生かし、高萩市の教育の充実に努めていきたい。



提言二題

話し合いました



笠間市PTA
連絡協議会会長
井川 省央

日頃より校長先生をはじめとして、先生方や職員の方々、また地域のボランティアの方々には、様々な形で子供たちが大変お世話になり、またPTA活動へのご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

一人の保護者から本部役員へ、そして小学校での会長、さらに笠間市PTA連絡協議会の会長へと立場が変わっていくことに、学校や地元地域だけでなく、市内の様々な団体からの協力や援助があることを知りました。PTA活動というだけでなく、保護者と学校との関係ばかり考えがちですが、実は大変多くの方が有形無形の様々な形で学校と子供たちと関わり、見守っていただいているということに気づきません。これらの様子を伝えていくことも、大切な市P連の役目と思っています。そうとはいえ、やはり大切な

のは日頃のPTA活動であり、その中で何らかの問題が発生した時は、あらかじめ諸々を考え直すことができるいい機会だと思っています。

問題は何なのか、事の始まりやきっかけは何だったのか、解決するにはどうすればいいのか、話し合いを行うごとに今まで見過ごしていたことに気づくことも多々あります。

しかし、本部役員だけに限定しても、そう容易に何回も話し合いができるわけでもなく、学校と保護者全体での話し合いとなると、その場の一部の人たちだけが限られた時間の中で意見を出し、それをまとめて進めていくこととなります。これでは効率的に物事は進みませんが、それは問題ではないと思っています。大切なのは「話し合いました」という気持ちです。

本部役員として多くの保護者の方々の意見や姿勢を拝見して感じたことですが、それは「保護者みんなが、各個人それぞれの形で学校や子供たちのことを考え、各個人のできるやり方で何らかの協力をしたい」と思っていることには変わりはない。ということことです。

ベクトルの向きや長さなど、一人一人の気持ちは様々ですが、一つにまとめることはおよ

そ不可能に思えますが、そこであきらめるのではなく、「今ここにいる人たちが何ができるのか、どう進めていけばいいのか、意見を受け入れられなくても理解する努力を少しだけする、そして、やってみて考える。」これら続けることが大切だと思えます。そのことが結果としてPTA活動だけではなく、学校の、子供たちの環境に繋がらないでしょうか。

焦らず、気負わず、時には間違っても許しながら、誰もが子の豊かな成長を願い、先生を信頼し、学校を愛する雰囲気や育まれ続けられるよう、今後も向かっていきたいと思えます。

PTAの役割



日立市立小・中学校PTA
連合会会長
小野 智久

本年度、日立市立小・中学校PTA連合会会長に就任しました小野智久と申します。日頃から児童生徒のためにご尽力いただき誠にありがとうございます。

日立市P連は小学校二五校、中学校一五校で成り立つ

ており、会員数は保護者約一万一千、教職員約千名です。当会は年に三回ほど会長会議を行い、会長の研修や情報交流を図っています。

副会長を務めた昨年度、自分が担当する会長会議において、SNSによるいじめをテーマにして、全国Webカウンセリング協議会理事長である安川雅史先生の講演を聴く機会がありました。講演の中で先生は、実際に相談を受けた事例を中心に、生々しいショックな話をされ、被害者の子どもだけでなく、その保護者や学校関係者に与える影響が非常に甚大であることを訴えていました。ネットの力によって、四五年前に学校で起きた醜聞が現代で甦るなど、本当の怖さをわかっていないのはわれわれ大人だと気がかされました。

近年は、生まれたときから携帯電話があるという世代が親になってきています。携帯やスマホで相手とやりとりしているのが当たり前の人は、上手に人とコミュニケーションがとれず、子育てに關しても相談や助けを求められないことが多くなってきました。親が社会とコミュニケーションがとれず、地域から孤立している家庭で育った子供は、自分も同様に仲間と上手にコミュニケーション

がとれずに、いじめの被害者・加害者となり得る可能性がある」と聞いたことがあります。PTAに關わるものとして、そういった孤立する家庭が出ないよう、地道ではありますが、活動を続けていかなければならないと思えます。

また先日、PTAへの加入は任意である、マスコミは著名人の話をとおして報じました。確かにそうではあります。任意であるからPTAに参加しないとの風潮は、人と人との関わりをますます遠ざけることにもなります。教育の自由が保障されており、しかし教育を受けさせる義務も憲法にはうたわれています。これからの国を背負う子ども達を育てていくのが国民の役割であり、人間本来の目的であるはずですが。

他方で、PTAに關わりたくないという保護者がいることは事実であります。それは、どこか本来の目的を忘れた組織運営がされているからかもしれません。日立市P連の今年のスローガンは「子育てに二度無し」としました。限られた貴重な子育ての期間を後悔しないよう、親と教職員の協力と情熱で、PTA本来の役割である子供たちの幸福な成長を図っていかねばならないと思えます。



創意と活力に満ちた 学校経営

心豊かに一人一人が輝く 学校を目指して

ひたちなか・佐野小
宮田 斉

本校は、ひたちなか市の北西部に位置し、創立一四三年の歴史と伝統のある学校である。児童数八六四名、学級数三十(特別支援学級三を含む)という大規模校であり、保護者・地域も教育活動に対して大変協力的である。

一 めざす学校像

本校の教育目標である「学ぶ意欲に満ち 心豊かで たくましく生きる児童の育成」を目指し、「協働・安心・信頼」を学校経営のキーワードとして、家庭・地域の協力を得ながら日々の教育活動に取り組んでいる。

二 ICT機器を活用した授業の推進

平成二五年度から二年間、市の研究推進校としてICT機器を活用した授業づくりに取り組んできた。本年度も継続研究として、ICT機器を効果的に活用することにより、児童が、考える楽しさ、分かる喜びが実感できるような授業づくりを工夫

し、学力の向上を図っている。

本校では、低・中・高学年用のICT教室があり、書画カメラや電子黒板、プロジェクトなどのICT機器が常時設置されている。また、デジタル教科書についても全学年で活用できるようにしている。さらに、昨年、地域の商業施設の方からタブレットが寄贈され、主に算数科を中心に「考える場面」「比較検討の場面」で活用している。

しかし、教師のICT機器活用への関心や活用技能には個人差があり、指導に不安を抱える教師も少なくない。そこで、年に一回外部講師を招き、デジタル教科書等ICT機器の活用方法についての職員研修を行っている。近年のデジタル化に対応する上でも、教師のICT機器のスキルアップは必須である。

三 児童の自主性・自立性を大切にしたい教育活動

本校では、児童会活動が活発で、児童の自主性・自立性を大切にしている。本年度は、「佐野つ子HAPPY STORY あふれる笑顔と絆への道」というスローガンのもと、以下のような活動を児童が中心となって

行っている。

- 佐来楽くんと約束十か条 学校のきまりが、一年生でも分かりやすく理解できるように作った生活のきまりである。「佐来楽くん」とは、児童会が中心となって決めたキャラクターで、毎日佐野小に来ることが楽しくなるようにという願いが込められている。
- ずっとあいさつ佐野つ子運動 ○ キラりんウイーク

四 体力アップチャレンジコー

- わたしたちの行動宣言 「いじめ0宣言」
- はつらつタイム (ロング昼休み)

五 フォームを確かめられるような

場を設置しており、毎日多くの児童が楽しく利用している。また、体育館にも、「体づくりコーナー」を設け、基礎体力づくりの場の充実を図っている。

五 特色ある教育活動

本校では、地域に開かれた学校づくりをするために、学校公開日に合わせて各分野で専門的な知識をもった保護者や地域の方々に講師に招き、科学実験やものづくり体験をする「わくわくスクール」を開催している。

また、近隣にスケート場を運営している運動公園があり、体育の学習の一環として四年生を対象とした「スケート教室」を実施している。

このように、地域・家庭との連携を図りながら、教育活動を行っている。今後は、さらに目指す方向性を具体的に示しながら、全職員が一丸となり児童一人一人がより輝く学校運営の実現に向け力を尽くしていきたい。

生徒が主体的に、よき伝統を築く活動を大切にして

日立・坂本中
澤島 明

置し、新制中学校制度が始まったときから存続している創立七〇年目を迎える歴史ある中学校である。生徒数二二二名、学級数七、職員数二八名の小規模校である。昭和四〇年に建てられた校舎は、東日本大震災にも耐えてきたが、耐震強度不足から、今年度中に職員室などの中枢機能が仮設校舎に移転される予定である。

本校の教育目標は「一人一人の夢や希望の実現 ―さかもと魂を身に付けた生徒の育成―」を掲げている。さかもと魂とは「さわやかさ」「感謝の心」「目標をもつ」「途中であきらめない」の頭文字と教育活動に対する姿勢を表す言葉である。さかもと魂の育成を基盤に教育活動を推進している。

七〇年の伝統の中には、生徒が主体的に築き上げてきた教育活動もたくさん見られる。最近伝統として新たに加わった特色ある教育活動を紹介したい。

一 いじめ撲滅委員会(1B)の活動について

四年前に、一年生が先輩から心ない言葉をかけられたことをきっかけに、生徒主導の活動としてスタートし、現在では常任委員会「いじめ撲滅委員会(1B)」として活動を深化・発展させてきた。平成二六年度には、県教委から「いじめストッ



プ！絆づくりプロジェクト推進モデル校」として表彰を受け、昨年一月には文科省主催の「全国いじめ問題子どもサミット」に県代表として参加し、「私達はいじめをしない させない 見逃さない」の合い言葉のもとに継続してきた活動実績について発表することができた。現在は、「あいさつ運動」「靴箱のかかとそろえ運動」などの常時活動から「いじめゼロ宣言」や「IBフェスティバル」などのイベントを行っている。これらの活動がきっかけで、昨年の一月には、教育評論家の尾木直樹氏が学校を訪れ、「LINEいじめ防止」などに関するアドバイスをいただいた。早速、生徒主体で「ケータイ・スマホの坂中ルール」を策定し、「目に見えにくいいじめ」の防止にも目を向けている。毎年生徒総会で、「いじめゼロ宣言」をするのも伝統になっている。

二 いばらきっ子郷土検定県大会出場に向けての取組について

平成二五年度から始まった県教委主催の「いばらきっ子郷土検定」に二年生を中心に、全校で取り組んでいる。また、第一回県大会から三年連続で日立市代表として出場を果たしている。文化祭のイベントとして校内いばらきっ子郷土検定大会を実施し、二年生の県大会での活躍を祈念



する壮行会を兼ねてみんな応援している。全校挙げて、茨城県の伝統や文化を楽しみながら学び、郷土への愛着や誇りを高め、郷土愛を醸成することが本校のよき伝統となりつつある。

三 キャリア教育の充実をめざして

昨年度から学校課題研究のテーマとして、キャリア教育に力を入れている。昨年度は、学力向上が課題研究のテーマであったが、授業研究による教師の指導力向上や個別指導の充実、家庭学習の習慣化、授業時間の確保等だけでは限界を感じていた。キャリア教育を通して、今の学習が将来どのような役に立つのかなどの発見や自覚が日頃

の学習の改善となり、そのことが更なる学習の深化に結び付き学力の向上に繋がっていくと考え、研究テーマの軌道修正を図った。昨年度は、二〇名もの職業人をゲストティーチャーとして招き、一年生に話を聞く機会を設けた。二年生では、生徒の関心・意欲を大切にして四七の事業所を対象に職場体験学習を実施することができた。そして、今まで以上に生き生きと意欲的に取り組む生徒の姿が見られた。このような活動を通して、異世代とのコミュニケーション能力や社会のルール、マナーを体験的な学びを通して身につかせ、自己理解の深化や自己有用感の向上、勤労観・職業観の形成・確立を図っている。

これらの取組が、坂本中学校のよき伝統として根付いていくことを期待している。

**チームとして機能する
学校づくりを目指して**
つくばみらい・小絹小
横島 彰

本校は、つくばみらい市の南西部に位置し、創立七〇周年にあたる。児童数五四四名、学級数二二（普一八・特支四）、全教職員数四〇名の学校である。保護者や地域の方々は、全国各地から集まっており、教育に対

する期待も高く、学校教育活動に協力的である。

一 目指す学校像

教育目標「共に学び合い、たくましく自主的で実践力のある心豊かな児童の育成」の具現化のため、学校・家庭・地域が連携し、チーム小絹小として子供の健やかな発達を目指している。

二 具体的な取組から

① 同僚性の構築

チーム小絹小として取組むには職員の和が不可欠である。そこで、職員のモットーを「会話と笑いの中に戦略が生まれる」とした。様々な情報交換から、職員の和を構築し、その中から、教育活動の悩みを一人で抱え込まず、組織で相談・対応する体制づくりを推進している。

② 中堅若手教員の育成

できるだけ中堅若手教員を組織の中核に据え、ベテラン教員がサポートする体制を構築し、ベテラン教員の教育技術の伝承をしている。そのため、中堅若手教員の組織を動かす力、計画立案力、調整能力等がより向上し、組織が活性化してきている。

③ 少人数指導・TTの実施

少人数指導教員・市TT指導員の加配があり、中学年・高学年の算数科の授業で少人数指導やTTを実施している。少人数指導を基本に、単元により児童構成や職員配置に変化をもた

せ、学び合いを取り入れている。その結果、児童間に聴き合い、教え合う支持的な雰囲気醸成されてきている。また、学年差はあるものの、徐々に取組の成果が数値にも表れてきている。

④ 教科担任制の実施

体力運動能力の向上、理科教育の充実、外国語活動の推進等の観点から、教科担任制(体理・英等)を高学年で実施している。専門性の高い教員が指導に当たることから、児童の興味関心が高まっている。さらに、複数の教員が指導に当たるので、異なる視点で児童理解ができるため、児童が認められる機会も増え、自己肯定感の高揚に繋がっている。

⑤ 道徳教育の充実

平成三〇年度完全実施の道徳科を見据え、道徳の研修に力を入れていく。「他者と共によりよく生きる児童を育てる道徳教育」を考え、議論する道徳を「目指して」をテーマとし、道徳を要として、全教育活動を通して豊かな心の育成を図っている。

⑥ 黙働・黙動の推進

本年度のキーワードを「黙」とした。清掃時、黙って清掃に取り組み黙働、会話不要時に黙って行動する黙動から、学校生活の中で自分の心や行動に真摯に向き合い、自省する活動を推進している。



⑦特別支援教育の充実
 配慮を要する児童が増加している現状を受け、特別支援担当者のコーディネートにより、合理的配慮と基礎的環境整備に努めている。また、全教職員への情報提供や相談活動の実施、保護者や関係職員との個別の指導計画の作成実践改善から児童のスキルアップに取り組んでいる。

⑧小中一貫教育の推進
 本市では、中学校区ごとに小中一貫教育を推進している。小絹中学校区は施設分離型の一貫教育であるが、一小一中で校舎が隣接しているため、取組が容易である。そこで情報の交流(小中合同研修、相互授業参観等)や九年間を見据えた連携(目標・指導法の一貫性、学習内容・指導内容の接続性等)を図るため協働で取り組んでいる。

三 まとめ
 学校が抱える課題は複雑で多

様化している。その課題対応には、学校組織の在り方を見直し、学校内外の人的物的資源を生かしていくことが重要である。今後とも教職員が信頼し合い、チームとして機能する学校経営を目指し努力していきたい。

「全ては生徒のために」
 生徒の可能性を信じ、
 職員(仲間)を信頼して
 筑西・下館西中
 大木 一雄

本校は、筑西市の北西部に位置し、田園風景の中、学区の西側を鬼怒川が流れる、自然豊かな地域である。

また、今年度で創立五二年目を迎え、生徒数四一五名、学級数一六(特別支援学級四を含む)、教職員数三六名の中規模校である。

平成二六年度末に新校舎建築が終了し、生徒は素晴らしい環境のもと、落ち着いた学校生活を送っている。また、部活動も盛んであり、女子バレーボール部は四年連続関東大会出場、昨年の県新人大会優勝、野球部も県新人大会第三位、飛田穂洲旗大会優勝など、素晴らしい成果を残している。

本校の教育目標は「自ら学び自ら考え、心豊かでたくましい生徒を育成する」である。今年度も『ワンフオーオール・オー

ルフオーワン』の精神で、全ては生徒のために、を合言葉に、全職員が一丸となって日々の教育活動に取り組んでいる。

一 確かな学力の定着を図る学習指導の充実
 生徒には、将来「こんな人生を送りたい」という夢がある。その夢を叶え幸せな人生を送るためには、日々の「学び」が大切であると考ええる。

また、生徒指導の面からも「分かる授業」の実践が最も大切であると考え、教師の授業力向上のために、指導体制の見直し、校内研修の充実を図っている。

(一)異学年教科担任
 本校では、一学年を一人の教科担任が教える体制をとってきた。学年全体の学力を把握できるメリットもあるが、教科主任を中心に、指導方法等の情報交換など、より教科部会の充実を図る必要があると感じた。

そこで今年度は、同一学年を複数教員が担当する「異学年教科担任」の体制にした。そうすることで、指導内容の系統性を考えた指導等についての意見交換や情報交換がなされ、指導力の向上につながると考えた。また、教科部会を充実させることで、若手教員が先輩教員から多くのことを学べる機会にもなると考え

る。

今後は、評価を行いより良い指導体制につなげていきたい。

(二)ICTの効果的な活用
 本校では昨年までの二年間ICTの効果的な活用について授業研究を進めてきた。研究の成果と、全教室に備え付けのプロジェクトがあるという利点を生かし、ICTを指導過程の中で効果的に活用し、学ぶ意欲と学力向上に努めている。

(三)個に応じた指導の充実
 本校では、数学と英語で少人数指導を、社会・理科でT Tの指導を行っている。複数教員で授業を行うことで、個に応じた指導を充実させ、生徒の学力向上に努めている。

二 生徒会活動の活性化
 生徒会を中心に、委員会活動の活性化や、各種行事の充実を図っている。「学校は自分たちが良くする」という意識を生徒にもたせるためには、様々な活動や行事を、生徒の意見を取り入れ、生徒の活動を前面に出したものにしていかなければならないと考える。

(一)スクールリフォーラム運動
 「あいさつ」「時間」「服装」「黙働」「清掃」「言葉づかい」の五つの行動目標を掲げ、生徒会を中心に「スクールリ



フォーラム運動」として全校で取り組んでいる。

(二)ボランティア活動
 生徒の自発的な活動を促し、自己有用感を育成するために、生徒会を中心にボランティアを募り活動を推進している。

○『社会を明るくする会』とのJ R玉戸駅前でのあいさつ運動
 ○『鬼怒川を愛する会』との「ポピーの種まき運動」
 ○『障害者福祉法人ピアしらとり』でのボランティア活動 等々

西中に勤務して二年。素晴らしい生徒と職員(仲間)と学校生活を送れることに感謝し、これからも「全ては生徒のために」そして「初心を忘れず」真摯に学校経営に当たっていきたい。

大会に参加して

第六八回全連小総会に参加して

日立・豊浦小 後藤 弘文

第六八回全国連合小学校長会総会研修会が、五月二十五日に東京都港区ニッショーホールで開催され、茨城県の代議員として参加させていただいた。

二年目となる大橋明会長からは、熊本地震からの学校再開が果たせた状況に触れてから、①グローバル化、少子高齢化が進み、変化の激しい流行の部分と変えてはいけない不易のものとの見極めをする必要があること

②なぜ変えるのか、改革の意義を理解し、自らの使命を自覚し、アクティブ・ラーニング等教育条件を整備し、チーム学校として取り組んでいくことなど、熱い思いが伝えられた。

来賓の馳浩文部科学大臣からは、①次期指導要領内容は削減をせず、「教育の強靱化」を推進すること、②全国学力・学習状況調査において、過去問の徹底練習で数値をあげることが懸念され、学力とは何かを問い直し、よりよい教授法を見つめ直

すことなどが伝えられた。

総会では、平成二十七年の各報告のあと、二八年度の活動方針や予算などの審議が行われ、全ての案件が可決された。

今年度の活動方針では、「新たな価値を創造し、社会を生き抜く力を身に付けた日本人の育成」を目指すために、①学校経営の充実、②研究活動の充実、③生きる力の育成を目指す教育課程の編成・実施・評価・改善、④教職員の資質能力の向上、⑤教職員の定数や処遇の改善、五項目を推進することとした。

また、宣言文では、「全国二万の小学校長は、新たな価値を創造し、社会を生き抜く力を身に付けた日本人の育成を目指すために、組織の総力をあげて調査・研究活動の充実を努めるとともに、積極的に施策提言を進め、小学校教育のさらなる充実・発展に努める」ことで、「確固たる経営方針に基づく活力ある学校経営の推進」等、一三項目の実現を目指し、全力を傾注することが宣言決議された。午後の研修会では、浅田和伸文部科学省大臣官房審議官を始

め、各課長より行政説明が行われた。浅田審議官からは、「当面する初等教育の諸問題」と題し、①教育再生実行会議、②教育課程の強靱化、③馳プラン等が示され、今後の教育改革について、概観することができた。



第六八回関東プロ小東京大会に参加して

行方・玉造小 片岡 満

第六八回関東甲信越地区小学校長研究協議会が、六月九・一〇日、東京都で開催された。本県からは、小島睦校長を団長とし、総勢五三名が参加した。

第一日目の開会式では、本間俊関プロ協議会長から、「校長の果たす役割が今まで以上に大きくなっていることを踏まえ、

校長先生方の英知を結集して協議を深め、その成果を十分に学校経営に生かすとともにリーダーシップを発揮することにながらう願っています。」と挨拶された。また、後藤良秀東京大会実行委員長からは、「各提案者からの提言を受けて協議を深め、ブラッシュアップして学校経営の方略として役立ててほしい。」との挨拶があった。

全体会では、大会趣旨説明の後、各都県だより、そして大会宣言決議が行われた。「時代や社会の変化により、校長に期待される責任は一層重いものとなった。今後、直面するであろう様々な課題解決に向けて、校長は自らの識見を高め、将来を見据えた学校経営の明確なビジョンをもち、強いリーダーシップを発揮し、創造的な学校経営を行うことが重要である。」として、大会主題「新たな知を拓き人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進」のもと、その実現に向けて全力で取り組むことが提案され、満場一致で決議された。その後の、養老孟司氏と竹村富士徳氏による記念講演では、学校経営に資する内容を拝聴できた。

第二日目は、新宿と渋谷の二会場二分科会に分かれ研究協議が行われた。本県からは、三名の先生が発表された。つくばみらい市立小張小学校の堀江玲子校長の発表では、「豊かな心を育てる道徳教育の推進」という視点で提案し、今後の道徳教育の授業展開について協議された。高萩市立松岡小学校の國井徹校長の発表では、「感性豊かな児童(生徒)の育成を目指した環境教育の在り方」という視点で提案し、地域を生かした環境教育の在り方について協議された。古河市立上大野小学校の滝本秀夫校長の発表では、「二世紀に生きる力を育む創造的な学校経営」経営ビジョンをいかに具現化し実現するか」という視点で提案がなされ、ICTリテラシーの確立、豊かな人間性の涵養について協議された。この二日間、県内外の校長と積極的な情報交換ができ、大変有意義な研修となった。



第六七回全日本中学校長会総会に参加して

つくば・竹園東中 岡野 和夫

総会は、五月二六日、二七日の両日、国立オリンピック記念青少年総合センターを会場として開催された。

第一日は、午前中に前年度役員表彰と議事が行われ、午後は皇居特別参観となった。

始めに、伊藤俊典全日中会長が二七年度の活動を総括し、①各地区校長会研究大会の取組、②全日中教育ビジョンに掲げた目標への取組と再改定、③東日本大震災支援委員会の活動について報告した。

祝辞に立った馳文科大臣は、



以下の五つの柱で熱く語りかけた。①五月一〇日に発信した「教育の強靱化に向けて」の趣旨。二項対立を超えて、新しい時代を生き抜く力を身に付けさせること。②全国学力調査の過去問題を繰り返し児童生徒に解かせていたことについての警鐘。③不登校や夜間中学校の問題に関して、基礎教育を学ぶ場所の提供と一定の経済的支援。④広島県の自殺事案に関して、進路指導に際しての情報共有と配慮に配慮を重ねることの重要性。⑤教員が休みなく働いている事態に関して、チーム学校を進める姿勢と法改正。教職員定数の配置要求。教育に対する先行投資の重要性。最後に「常に現場の声を傾けながら、国の将来を担う子供たちにどのような教育環境を整備していくかを肝に銘じ、真面目に取り組んでいく」と結んだ。

議事は、各部の会務報告、会計決算報告に続き、新会長に東京都新宿区立新宿中学校の榎本智司校長を選出した。新年度の活動方針と予算が承認され、総会宣言と決議がなされた。

第二日は、文科省大臣官房審議官による講演と文科省行政説明が行われた。

浅野審議官は、教育再生実行

委員会の九つの提言について、教育課程の改定について、次世代の学校・地域創世プラン（馳プラン）の推進について、全国学力・学習状況調査結果の活用について、教職員定数についての五つの柱で話された。

行政説明は、初中局各課長からなされた。財務課長からは、加配の増加、義家タスクフォースについて。教育課程課長からは、学習指導要領の改訂について。児童生徒課長からは、性同一性障害やいじめへの対応、主権者教育について。国際教育課長からは、英語教育の推進、在外教育、帰国・外国人教育について。教育改革のうねりの中で、熱のこもった総会であった。

第六八回関東地区中長野大会に参加して

結城郡・八千代東中 白石 光浩

第六八回関東甲信越地区中学校長会研究協議会長野大会が、六月一六日、一七日の両日、長野市において開催された。本県からは、田邊一男県校長会会長を団長に、五九名が参加した。

一日目はホクト文化ホールにて開会式、文部科学省説明、全体協議会、記念講演が行われた。開会式では、柴内靖関地区中

会長からは本大会への期待が、武田育夫長野大会実行委員長からは「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く人間を育てる中学校教育」を研究協議会として長野大会を開催することが伝えられた。

文部科学省説明では、「当面する初等中等教育の諸課題」と題して、文部科学省大臣官房審議官高大接統・初等中等教育局担当浅田和信氏から、一九〇頁にもわたる詳細な資料により、教育再生会議や教育課程、馳プラン、全国学力学習状況調査等についての説明を受けた。

続く全体協議会では、基調提案の宣言決議後、全体協議会設定の趣旨説明を受け、長野県が「地域の学校としての中学校教育の創造」を研究の視点として取り組んだ教育実践が報告された。記念講演では、「絵のこと、生きること」を演題に信濃デッサン館・無言館館主の窪島誠一郎氏による「ご自身の生い立ちから、無言館設立にまつわるエピソードが紹介された。戦争によって引き裂かれた愛の証である『戦没画』の話には感涙した。

二日目は、九つの分科会に分かれ、本県からは、第九分科会（条件整備…研究議題「家庭・地域社会との連携を生かした学

校経営の活性化」）で、守谷市立げやき台中学校石井良秋校長の提案があった。

つくばエクスプレスの開業以降の人口増により、八から一八学級に学級数が急増。他市町村からの転居者が九割。地域・住民の人間関係が希薄等からの課題の克服に向けて「保護者や地域住民のニーズを学校経営に生かすための手立て」を視点に、補足資料による具体的な実践例の紹介により、学校・家庭・地域が連携して学校経営の改善・活性化を図っていくことが重要であるとの報告があった。協議では、守谷市立守谷中学校辺見芳宏校長の司会のもと深まりのある協議がなされた。

この二日間、地域と共に創る学校、地域と共に歩む学校のあり方を再認識する有意義な研修となった。



生きる力を育む

創意と活力に満ちた学校経営

新会員の抱負

中 央

水戸市
笠間市
ひたちなか市
常陸大宮市
那珂市
小美玉市
東茨城郡
那珂郡
久慈郡



水戸・城東小
佐藤 隆

純朴で素直な子供たち、高い理想をもった熱心な教職員、心温かい保護者や地域の方々に囲まれ、伝統ある城東小学校で勤務できますことに喜びと責任の重さを感じております。子供たちの無限の可能性を信じ、全ての子供の学びと成長が保障される学校づくりに、「チーム城東小」で取り組んでまいります。



水戸・寿小
大高眞澄

県庁にほど近い児童数六八一名の伝統ある寿小学校に赴任し、喜びと責任の重さを感じています。安全・安心な学校を基盤に、人権教育を学校の軸とし、「夢をもって、自ら学び、心豊かでたくましく生きる児童」の育成を目指して、全職員が一丸となった学校づくりを進めてまいります。



水戸・石川小
萩谷孝男

マーチングバンド部の活動が有名ですが、児童は様々な活動に取り組んでいます。そのどれもが貴重な活動であり、児童の成長に役立つものであると考えています。児童の自主性・主体性を育むため、「よいところを認めて、ほめて伸ばす」を合言葉に、「チームいしかわ」職員一同で取り組んでまいります。



水戸・飯富小
内田和子

明るく素直な子供たち。常に温かく見守ってくださる保護者や地域の方々。ここで勤務できることの喜びとその職責の重さを痛感しています。子供たち一人一人が笑顔で、自分の未来を主体的に切り拓いていけるよう、教職員と共に心を合わせ、精一杯努力していく所存です。



水戸・梅が丘小
矢萩賢一

「みんなでつくろう楽しい学校」を本年度のスローガンに、平成二八年度がスタートした。学校は子供のためである。主役は子供である。多くの教職員と知恵を出し合い、創意工夫をしながら、八七三名、一人一人のよさや可能性を引き出して行きたい。全力で…



水戸・赤塚小
和田雅彦

生まれ育った水戸市の学校に勤務できる喜びとともに、魁の精神を受け継ぐ文京の府に校長として勤務する責任の重さを実感しています。「今まさに 学び 鍛えん」という学校訓のもと保護者や地域の方々と手を携え、「生きる力」が身につくよう、教職員一丸となった学校づくりに努めます。



水戸・内原小
大芝静香

校歌の「もちの木」の大本に見守られ、「毎朝元気なあいさつが響く内原小学校です。一人一人の児童が校訓である「なかよく、かしこく、たくましく」成長できるよう、保護者や地域の方と連携協力し、九年間を見通した教育活動を展開し、充実感と成就感をもつことができる、笑顔あふれる学校を目指します。



水戸・内原中
井坂健一

内原中学校は、地域や保護者に大事にされている学校です。生徒にも、愛着と誇りある「母校」という意識をもってほしいと心から思っています。そのため、生徒と夢を語り、教師としてのロマンをもった仕事をしていきたいと思えます。そして、チーム内原で課題解決に当たる強い集団づくりに努めます。



笠間・岩間二小
飯村 稔

創立一四三年目の歴史と伝統ある岩間第二小学校に赴任し、喜びと同時に職責の重さを痛感しております。

「人間性豊かでたくましい児童の育成」を教育目標に掲げ、教職員・保護者・地域が一丸となつて将来の日本を背負うすばらしい児童を育成できるような努力してまいります。



ひたちなか・堀口小
石井嘉紀

校歌の一節「春風吹いて丘の若草みどります」のとおり、着任して間もなく、広大な敷地の樹木や草々が一気に緑色を増し進級の喜びに心を膨らます子供たちに重なる見えました。

歓声が響き、笑顔の広がる学校で、一人一人が夢を育んでいけるよう、職員一丸となつて教育活動に取り組んでいきます。



ひたちなか・那珂湊中
市村裕之

太平洋の大海原をのぞみ、歴史と伝統のある那珂湊中学校に赴任し、喜びと責任の重さを感じています。

「正義感と心の安定に満ちた学校」「強い組織力と対応力のある学校」「地域に信頼され愛される学校」を目指し、教職員一丸となつてその具現化に全力で取り組みます。



常陸大宮・美和小
澤畑珠美

正面の花立自然公園に優しく見守られている美和小学校に赴任できたことに大きな喜びと職責の重さを痛感しています。

あずかった一〇四名の児童たちが、地域の特産である「美杉」のように、「のびのびと素直に元気に」育つことを願い、家庭・地域と連携し、開かれた学校づくりを推進してまいります。



笠間・南小
海老原誠

明るく素直な子供たち、日々情熱的に取り組む教職員、協力的な保護者や地域の方々、そして、市教育委員会の手厚い支援。恵まれた環境の中、さらに課題意識を持ち、支え合い高め合う「チーム学校」、地域から慕われ信頼される「地域とともにある学校」づくりに向け全力で取り組んでまいります。



笠間・岩間中
栗原 登

愛宕山を望む、風光明媚で自然豊かな岩間の地で、「自主に生き望大きく健康であれ」の校訓のもと、地域保護者の方々の強い支援を受け、本校は充実した教育活動を展開しています。恵まれた環境の中、職員が一丸となり、生徒の主体的・協働的な学びを支援し、「岩中プライド」の確立を目指します。



ひたちなか・那珂湊二小
皆川正巳

人懐っこい子供たちと学校に協力的な保護者、そして、温かい目で子供たちを見守り、惜しみない支援をしてくださる地域の方々から恵まれた湊二小。勤務することができると喜びと責任の重さを感じています。

子供たちが、楽しく通える学校づくりに職員一丸となつて取り組んでまいります。



常陸大宮・大賀小
雨海尚雄

久慈川の清流と緑豊かな環境に恵まれた本校は、創立一三〇年を迎えます。八二名の児童たちは、地域の宝として保護者や地域の方々に温かく支えられています。小規模校の強みを最大限に生かし、児童一人一人のよさを引き出しながら、教職員一丸となつて笑顔あふれる学校づくりに取り組んでまいります。

全力を尽くしてまいります。



常陸大宮・緒川小
高橋弘道

日本屈指のオカリナ奏者である宗次郎さん作曲の本校の校歌を、子供たちは愛着と誇りをもって歌声を響かせています。

「花と歌と夢のあふれる学校」をめざし、保護者・地域と共に児童一人一人の個性の伸長と知・徳・体のバランスのとれた児童の育成に教職員が一丸となつて全力を尽くしてまいります。



常陸大宮・大宮中
白井浩之

「文武両道」の精神が脈々と受け継がれている、歴史と伝統ある大宮中学校に勤務できる喜びと責任の重さを感じています。

五二九名の生徒一人一人の良さを引き出しながら、力量のある教職員一丸となって、活気ある学校づくりに取り組みます。



那珂市・那珂三中
綿引 誠

緑豊かな美しい教育環境に建つ第三中学校に再び勤務できる喜びを感じると同時に、職責の重さを痛感しています。

教育目標「学ぶ意欲と思いやりの心をもち、たくましく生きる生徒の育成」を目指し、教職員がチームとして機能し、一丸となって保護者・地域から信頼される学校づくりに努めます。



小美玉・下吉影小
青葉宏一

「今日が楽しく明日も楽しいな学校づくり」を目指して、新任校長として日々奮闘中の毎日です。校長職は就いてみるとその責任の重さを肌で感じるものが多く、決断を迫られるたびに覚悟を決めて取り組んでいます。

急激な時代の変化に対応しつつ、地域一体型のチーム学校にしていきたいと考えています。



小美玉・堅倉小
稲毛精二

明るく素直な子供たち、協力的な保護者・地域の皆様、一生懸命な先生方とともに勤務できることの喜びと職責の重さを痛感しています。

児童にとって「学びがいのある学校」、保護者にとって「頼りがいのある学校」、教職員にとって「働きがいのある学校」を目指します。



小美玉・玉里東小
圓尾康子

霞ヶ浦を臨み、創立一四〇周年を迎えた歴史と伝統のある玉里東小学校で勤務できることに感謝しております。

教職員一四名が一丸となって、保護者や地域の皆様と力を合わせ、五七名の子供たちのために「学びいっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい」の学校づくりに邁進してまいります。



那珂市・額田小
秋葉悦子

創立一四三年の歴史と伝統のある額田小学校に赴任し、喜びとともにその職責の重さを実感しています。「A(挨拶) K(協力) B(勉強) 8(学級すべて)」を合言葉に、シンボルツリー「モチノキ」のように、児童一人一人が夢に向かって伸びる学校づくりに全職員一丸となり取り組んでまいります。



小美玉・野田小
柴森浩志

本校は小美玉市よりコミュニティ・スクールの指定を受け、学区コミュニティと密接な連携の下、教育活動の充実に努めてきました。保護者や地域から絶大な支援を受けて児童は健やかに成長しています。本校に赴任できた喜びを意欲に変えて、職員と共に、児童の自主性をさらに伸ばす学校にしていきたいです。



小美玉・竹原小
中山恵弘

創立一四三年目を迎えた、歴史と伝統のある竹原小学校に赴任し、新しい校舎を見たときに、喜びとともに職責の重さを実感しました。「交流の深化」をキーワードとし、いろいろな人との関わりを重視した教育活動を展開し、地域とともに歩む学校、そして、楽しく元気な学校を目指します。



小美玉・玉里小
額賀 博

晴れて校長となったときに、沢山の方から励ましと心構え・祝福をいただき、喜びと重みを感じました。新しい学校に来て職員と会ったときには、自分の持っているすべてを伝授し、子供たちや先生方のために精一杯のことをしようと思えました。この気持ちをいつまでも忘れずに校長職を全うしていきます。



総会の様子1



東茨城・大洗小
沢畑好朗

明るく元気な子供たちと協力的な保護者や地域の方々、そして、意欲的な教職員のいる大洗小学校に勤務できる喜びを感じています。「ふるさとを愛し、夢や希望の実現に向けて、力強く歩む児童の育成」を目指しチーム大洗小とし、地域・保護者・職員が一丸となって取り組めるよう全力で努力してまいります。



東茨城・大洗南小
増田忠廣

大貫小と夏海小が統合され南小が開校いたしました。南小に勤務できることへの感謝とともに責任の重さを感じています。町の教育振興の目標である「海をのぞみ 未来を拓く大洗っ子の育成」を目指します。教職員一同「チーム南小として協働して、「夢や希望を目標に」頑張る児童を育成してまいります。



那珂郡・村松小
澤島京子

校舎を囲む里山には桜や藤の花が咲き、鳥のさえずりが聞こえる。保護者や地域の方とのつながりも強い。恵まれた教育環境の中で伸び伸びと育まれる本校の子供たち。多くの出会いと共に教育活動に携わる喜びを味わいながら、児童も教職員も生き生きと活動する学校づくり、全力で取り組みます。



久慈・だいが小
三村清敏

校庭にそびえる大げやきのように、「つよく 大きく たくましく」を目指し、明るく伸び伸びと活動する三三二名の児童。その児童を温かく見守り、信念をもって導く活気あふれる職員。どこの子も我が子と同様に大切に、非常に協力的な家庭や地域。この学校に勤められることに感謝し、全力を尽くします。



久慈・依上小
長谷川聡

歴史と伝統のある依上小学校は、全児童五五名の小規模校ですが、「本気に考え 伸よく たくましい子」の育成に向け保護者や地域との強い絆のもとに教育活動を展開しています。このような恵まれた環境の中で、夢に向かってがんばる児童の育成に、教職員と共に取り組んでまいります。



久慈・上小川小
寺門由美子

歴史と伝統のある本校に勤務させていただき、職責の重さと喜びを実感しております。六三名の児童は明るく素直、教職員は意欲的です。「地域の中の学校」を目指して、小規模校のよさと強みを生かし、児童一人一人に自主性・自立性を育むことができるよう職員が一丸となり全力で取り組んでまいります。



久慈・生瀬小
石川水良

新入生と担任の数の鯉のぼりが泳ぐ中での入学式、新緑の学校林での読み聞かせなどの学校行事を実施しました。素直な子供たちと温かな地域の方々との出会いを大切にして、豊かな自然を活かしながら「花と緑に生まれ笑顔あふれる楽しい学校」を目指して全力を傾けていきたいと考えています。



久慈・生瀬中
岡崎宏一

創立七〇周年目を迎えた、歴史と伝統のある大子町立生瀬中学校に赴任し、喜びとともにその職責の重さを実感しています。「正義 博愛 勤勉」の校訓のもと全職員一丸となって、日々の教育活動に全力で取り組んでまいります。

日立市
高萩市
北茨城市

県北



日立・仲町小
濱崎裕幸

本校は、日立鉾山・日立製作所の歴史と共に歩んできました。素直で明るい一四八名の児童、誠実な二七名の教職員、そして温かい保護者・地域の方々に支えられて勤務することに、誇りと責任の重さを感じています。未来を拓く子供たちに輝く時を刻めるよう、職員一丸となって取り組んでまいります。



総会の様子2



日立・久慈小
棚井義広

海が見える歴史のある、そして地域とのつながりが強い久慈小学校に勤務できる喜びとその職責の重さを痛感しています。「夢に向かって」という文言のある学校の教育目標の実現のために意欲をもって一生懸命に取り組むことができる児童の育成を保護者や地域との関わりも大切にしながらい目指していきます。



日立・日立特別支援
小池洋一

歴史と伝統ある日立特別支援学校に勤務できることに感謝するとともに、職責の重さを日々実感しております。児童生徒一人一人の夢が実現できるように、全職員一丸となって、精一杯支援してまいります。教職員・保護者・地域の方々と心を通わせながら、活力のある学校づくりに全力を尽くします。



日立・塙山小
佐藤恵子

地域の方々に見守られて、のびのびと育つ子供たち。キラキラした瞳で話しかけてくる児童は、まさに地域の宝です。

夢をもち笑顔が輝く塙山っ子の育成のため、子供も教職員もセルフエスティーム・自己肯定感を高め、楽しく生活できる学校づくりを心をひとつにして進めてまいります。



高萩・君田小
梶山義博

本校は阿武隈高地の南端に位置し山間部にある、全校児童四名の極小規模の学校です。すでに、平成二八年度末をもって閉校が決まっていますが、「自ら学ぶ心豊かでたくましい君田っ子の育成」のために学校・家庭・地域と連携し、少人数という特色を活かした教育活動に全力で取り組んでまいります。



高萩・秋山中
高野雅英

明るく素直で、元氣いっぱい二二三名の生徒に迎えられ、伝統ある秋山中学校に勤務できることに大きな喜びを感じながら、本年度をスタートしました。

「明るく、健康で、知性豊かな生徒の育成」を目標に、全職員と共に「生徒一人一人を大切にする学校」を目指し、学校経営に取り組みで参ります。



北茨城・中郷二小
宇佐美毅

豊かな自然と温かな人々に囲まれてすくすくと育つ中郷二小の子供たち。その誰もが人なつこくて素直。本校の教育目標は「よく学び、よく働き、よく遊ぶ」児童の育成です。授業や学校行事、地域との交流等を通して、児童も先生も一人一人全員が輝き、笑顔あふれる学校をつくっていきたいと思います。



北茨城・中妻小
岡部 毅

一〇三名の純粋な児童と優秀な教職員、そして温かい地域に迎えられ、中妻小学校に赴任しました。教諭時代に思い切りやらせていただいた恩返しとして、先生方が働きがい、生きがいのある職場づくりを進めます。そして職員一人一人の強みを生かし、地域とのつながりを大切に

「常在戦場」邁進する所存です。



北茨城・華川小
横倉寿美

花園溪谷の玄関口に位置し、豊かな自然に囲まれ、温かな地域の皆様に支えられている華川小学校に勤務できたことに、大きな喜びと責任を感じています。地域の宝である三九名の子供たちのためにできることは何かを日々考え、教職員一丸となって実践し、笑顔あふれる学校づくりに努めていきます。



北茨城・大津小
鈴木 泰

創立一四三年目を迎えた歴史と伝統ある大津小学校に勤務できたことを嬉しく思います。明るく素直な一四八名の子供たちと、協力的な保護者や地域の方々に支えられていると感じるにつれ、職責の重さを痛感する毎日です。「すべてはみんなの笑顔のために」全職員で取り組んでまいります。

県 東

鹿嶋市
神栖市
銚田市



鹿嶋・中野西小
辻野敦子

元気で素直な児童、愛情に満ちた教職員、温かい保護者や地域の皆様に囲まれて勤務できることに、喜びと責任の大きさを感じています。校庭の名木「多行松」のように地域にしっかりと根を張り、夢に向かって思いつきり頑張る子供の笑顔が輝くよう、チーム中野西で心を込めて取り組んでまいります。



鹿嶋・高松中
茂木政則

P T A の打ち合わせの折、「グラウンドのへこんだ所に砂を入れようと考えています。」と何気なく話すと、次の日に、「余分にあるので。」と、トラック一台分の砂が届けられました。これまでに高松中が築いてきた信頼関係を目の当たりにして、責務の重さと最善を尽くすことへの決意を再確認しました。



神栖・深芝小
佐々木均

深芝小学校は開校十二年目の新しい学校です。「児童と保護者、地域の方々と共に学校を創っていける」ことに、大きな幸せと使命感を感じています。毎朝、ガラス張りの明るく、近代的な校舎を見上げる度に、より一層光り輝く『深芝っ子』の成長を目指し、精一杯の努力を決意しております。



神栖・谷田部小
志村祥江

利根川の下流に位置し、美しい自然と昔からの街並みに囲まれた歴史と伝統のある矢田部小学校に赴任し、喜びとその職責の重さで身の引き締まる思いです。児童一人一人が夢と希望をもって明るく生き生きと生活することができる学校づくりに向け、保護者や地域との連携を図りながら進めて参ります。



神栖・神栖三中
栗原秀雄

新採時にお世話になった「うずも」の地に校長として赴任し、喜びと職責の重さを日々実感しています。生徒と教師が心を通わせ、たくましく躍進する学校を創ることができるよう、「自立貢献・神三PRIDE」を、生徒と職員の合い言葉にし、日々の教育活動に、一丸となって取り組む所存です。



銚田・新宮小
小澤信三

明るく素直な子供たち、労を惜しまず協力的な保護者や地域の方々、そして一生懸命な教職員との出会いに感謝するとともに、校長としての職責の重さを実感しております。「褒めて・認めて・伸ばす」を合い言葉に、将来の夢や希望の実現に向けて努力する子供の育成を目指して全職員で取り組んでいきます。



銚田・大洋中
高田芳則

歴史と伝統ある大洋中学校に赴任し、活気あふれる生徒たちや先生方と共に、学習や行事、部活動等に一緒に取り組めることに喜びと期待を抱くと同時に責任の重さを感じます。生徒たちの夢や目標をかなえられるよう、教員集団が、組織的に様々な教育活動に取り組んでいく学校経営を目指していきます。

県 南

土浦市
石岡市
龍ヶ崎市
取手市
牛久市
つくば市
守谷市
稲敷市
かすみがうら市
つくばみらい市
稲敷郡
北相馬郡



土浦・乙戸小
小泉 隆

県南土浦市の緑豊かな地に位置する乙戸小学校。協力的な保護者と地域の方々の姿に学校への期待を実感しています。「自らの力でたくましく生きる人間性豊かな」三五六名の児童の健やかな成長のために、児童も教職員も「明日もまた来たる学校づくり」に全力で取り組んで参ります。



土浦・藤沢小
原井一永

本校は二年後に、四つの小中学校と統合し、義務教育学校になります。母校の変革の時期に奉職できる喜びと、校長としての職責の重さに身が引き締まる日々です。

児童を主役にした教育活動を展開し、児童たちが夢に向かって羽ばたける「活力ある学校づくり」に取り組んでまいります。



土浦・土浦六中
小島勝則

生徒たちの輝く笑顔と和やかな雰囲気を迎えられ、土浦六中での素敵なスタートをきることができました。

「知性にあふれ、自主性・創造性に富み、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」を目標に全職員で協力して指導にあたり、生徒たち一人一人の夢の実現を支援してまいります。



土浦・都和中
鈴木 勝

都和中は創立三三年目を迎えました。創立時にも勤務させていただき、再び本校に赴任できた喜びと職責の重さを日々実感しています。

そして、「自主・創造・至誠」の校訓のもと、勉学と生徒会活動、スポーツや文化活動の活性化に向け、地域と一体になって全力で取り組む所存です。



石岡・三村小
島田稔紀

三村城址の高台に建ち、創立一四三年の歴史と伝統を誇る三村小学校に勤務できる喜びとともに、職責の重さを日々実感しています。

地域に根ざし地域とともに子供たちを育んできた本校教育の核を大切にしながら「心身ともにたくましい児童の育成」を指してまいります。



石岡・恋瀬小
湯原敦子

創立一三〇年の伝統ある恋瀬小学校の一日は、子供たちの明るく素直なあいさつで始まり、私の仕事の活力源となります。

このかわいい子供たちが笑顔でいられる「楽しくてたまらない学校」づくりに、地域連携のもと、意欲と活気ある職員と共に全力を尽くしていこうと考えております。



龍ヶ崎・川原代小
木野内茂樹

創立一二八年の伝統ある川原代小学校に勤務できたことに感謝するとともにその責任の重さに身の引き締まる思いです。

小規模校のよさを生かし、保護者や地域の方々との連携を大切にし「一人一人が輝く元気な学校」を教職員一丸となって目指してまいります。



龍ヶ崎・城西中
高田利信

本校は、創立三〇周年を契機にこの三年間で校舎、体育館、グラウンド整備がなされた環境のすばらしい学校です。今年度は、「生徒が主役となる学校づくり」

がテーマです。様々な体験を通じた学びをつなげていくために、教職員が協働し、生徒一人一人の健やかな成長を見取っていきたいと考えています。



取手・寺原小
杉田慶也

チーム寺原は「みんなで創ろう！笑顔あふれる寺原小」を目指しています。

「子供が、楽しく充実した学びをする」「家庭・地域の方々が、安心して子供を毎日通わせる」「教職員が、働きがいを感じながら意欲的に職務に取り組む」ことができる学校づくりに全力で取り組みます。



取手・山王小
花沢紀子

水と緑に囲まれた創立一四三年の歴史と伝統のある山王小学校に赴任し、喜びとともにその職責の重さを実感しています。

校訓「清く 正しく たくましく」のもと、保護者や地域の方々と手を携えて、「チーム山王小」を合い言葉に、子供たちの笑顔あふれる学校づくりに取り組んでいきたいと思ひます。



牛久・奥野小
青木 進

登校時に進んであいさができる子供たちに囲まれ、爽やかに一日がスタートできることに感謝しながら勤務しております。

一人一人の子供が「できた・分かった・もつとやってみたい」と自信をもって言える活力ある学校づくりを目指し、地域と共に奥野小のよさを活かした教育活動の充実に努めます。



牛久・向台小
林 雄一

「笑顔いっぱい 夢いっぱい 感謝いっぱい 向台の子」が本校のスローガンです。笑顔の絶えない学校、夢と希望をもって生活できる学校、周りの人に感謝できる学校を目指してまいります。そして、教職員・保護者・地域の皆様と力を合わせ、一人一人が心豊かに成長できるように努めていきたいと思っております。



つくば・柳橋小
岡野あつ子

創立一四〇年を超える歴史と伝統のある柳橋小学校に勤務できることに感謝するとともに、職責の重さを実感しています。一五九名の子供たち、一人一人のよさが最大限に伸ばせるよう、全職員で力を合わせ、保護者や地域の皆様の協力を得、子供が主役の活力ある学校づくりに全力で取り組めます。



つくば・谷田部南小
清水 明

本校では、つくば市立輝翔学園の九年間の小中一貫教育をもとに、特色を生かした教育活動に取り組んでいます。幼稚園との交流や縦割り班活動、地域と共に進める学校行事等を通して、子供たちの「自信と夢と笑顔」を増やしていきたいよう、全職員が一丸となった学校運営を力強く推進します。



つくば・筑波東中
岡野光浩

紫峰の山、筑波山の麓に位置する歴史と伝統のある筑波東中学校に赴任した喜びとともに、チームリーダーとしての職責の重さを痛感しています。協力的な保護者や地域の方々との連携を大切にしながら、活力のある教職員と共に、「夢・感動のある楽しい学園・学校」づくりを全力で推進してまいります。



つくば・荃崎中
小島 健

本校には、花壇作りや除草作業、あいさつ運動など、毎日のように地域の方が来てくださっています。地域の方々の学校への期待の大きさを感ずる毎日です。生徒の能力を伸ばすとともに、地域に根ざした、笑顔とまごころの教師集団を目指して、学校経営に取り組んでいきたいと考えています。



つくば・谷田部小
沼尻 浩

本校の明るく元気な子供たち千人と、活力溢れる職員に囲まれ、母校である谷田部小学校に赴任できた喜びと責任の重さを感じています。常に「子供」を学校経営の中心に据え地域と保護者の皆様と共に職員が一丸となって「夢・感動・挑戦」を合い言葉に小中一貫教育をさらに進めていきたいと思っております。



つくば・小野川小
赤木洋子

創立一三八年の歴史と伝統がある洞峰学園小野川小学校に赴任できましたことに感謝しております。地域とともに歩む学校・学園として、教職員が一丸となって子供たちのために「夢・感動のある楽しい学校づくり」を推進してまいります。



つくば・荃崎三小
黒澤美智子

豊かな自然に囲まれ、素直で優しい子供たち、活力のある教職員、協力的な地域の皆様に出会い、喜びとともに職責の重さを痛感しています。自分の夢や希望に向かって、目を輝かせて取り組む児童の育成を目指し「認め・励まし・育てる」教育を全職員一丸となって推進してまいります。



つくば・吾妻中
古澤武司

「青き理性に」、本校の校歌のタイトルです。作詞作曲は小澤俊夫氏。若く未熟だけど理性をもって何事にも挑戦し、自信をつけ、花を咲かせてほしいという願いが込められています。全職員、保護者、地域がその思いを共有し、一丸となり、生徒一人一人の能力を開発できるように全力で取り組みます。



守谷・松ヶ丘小
鈴木浩二

日々の教育活動では、「読む・書く・聞く・話す」を重点とします。子供たちのプレゼンテーション、コミュニケーション、ICT活用のクリエイティブな活動の基盤は、「読む・書く・聞く・話す」です。基礎・基本を大切に、活用する力を習得させる学校を目指します。



守谷・御所ヶ丘中
小口勝洋

「世界で輝く人づくり」をテーマに保幼小中高一貫教育を推進する守谷市の御所ヶ丘中学校に勤務できることに感謝いたします。「愛情 情熱 信頼」を合言葉に、知性と創造性に富み、未来を生き抜く心身ともにたくましい生徒の育成に努め、一人一人が輝く活力ある学校づくりに、精一杯努力してまいります。



稲敷市・新利根小
根本賢二

開校三年目を迎えた新利根小学校に赴任し、明るく、木のぬくもりのあるすばらしい校舎と元気にあいさつをしてくれる子供たちに囲まれて勤務できる喜びとともにその職責の重さを実感しています。保護者や地域の方々に信頼される魅力ある学校となるよう全力で取り組んでまいります。



稲敷市・あずま北小
根本政世士

明るく素直な子供たちと熱意あふれる教職員、協力的な保護者や地域住民に支えられ、伝統ある本校に勤務できる喜びと職責の重さを痛感しています。自ら学び、豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成を目指して、一人一人が輝く活力ある学校づくりに取り組んでまいります。



稲敷市・新利根中
永井 康

地域の方々が大切にしてきた新利根中学校。明るい生徒たちや協力的な保護者・地域の方々の笑顔に触れる度に、職責の重さを実感しています。「楽しい学校をつくりましょう。」を合言葉に、創造性を発揮し、自ら学校や社会をつくっていくたくましい生徒の育成に取り組んでいきたいと思えます。



かすみがうら・上佐谷小
西野 功

今年オリンピックキイヤー。選手たちは課題と向き合い、苦悩と挫折を乗り越え、今日を迎えたに違いない。子供たちには自分らしく、力強く生きぬく力を身に付けてほしいと願う。夢や希望を叶える大切な資質を育てるため、職員、保護者や地域の方々と共に、夢・感動・笑顔のある学校を目指したい。



かすみがうら・七会小
高野由紀子

明治一三年創立、歴史と伝統ある七会小学校の子供たちは、七会小学校を愛する保護者や地域に見守られ、素直で思いやりがあります。校長として、子供のことを第一に考え、職員を大切にすること、校経営を基盤にして、学校・家庭・地域が一体となる学校づくりを進めたいと思えます。



つくばみらい・谷井田小
倉田博文

明るく元気な子供たちと意欲的な教職員、協力的な保護者や地域の方々に支えられ、創立一三〇年を迎える伝統ある谷井田小学校に勤務できる喜びと同時に、その責務の重さを痛感しています。「子どもが主役、明日が楽しみな学校」を目指して教職員と共に全力で取り組んでいきます。



つくばみらい・豊小
中田和彦

本校では、「自ら伸びようとすること」を目標として取り組んでいきます。そのための基盤として、職員、児童、保護者、地域相互の良好な人間関係が何より大切と考えます。そこで、「明日が楽しみ」をスローガンにみんなが笑顔で過ごせる学校づくりに、教職員一丸となって取り組んでまいります。



つくばみらい・三島小
鈴木敏一

歴史と伝統のある三島小学校に勤務できることへの喜びと職責の重さを実感しています。私の教育信条である「教育は人なり。環境は人をつくる。」をモットーに本校の教育目標である「明るく楽しく元気な学校」を目指し元気な児童・情熱に溢れた教職員・保護者と一丸となって取り組んでいきます。



つくばみらい・板橋小
石塚武彦

明治三二年開校という歴史と伝統ある板橋小学校に赴任し、喜びとともに、その職責の重さを実感しております。本年度「自ら学び、心豊かな児童の育成」を教育目標に掲げ、子供たちの学習意欲の向上と活力ある学校づくりを目指して教職員一丸となって日々の教育活動に取り組んでいきます。



つくばみらい・東小
大川雅教

自然に囲まれた高台で四五名の児童が元気に学んでいます。地域から親しまれ守られている本校に勤務できる喜びとその職責を重く受け止めております。

東小の特徴は素敵な合唱です。歌声をとおして豊かな心を育み、認め合い 励まし合い 協力し合い 助け合い 四つの合い(愛)を備えた児童育成を目指します。



つくばみらい・福岡小
横山貴美子

豊かな自然と温かい風土の中で、子供たち一人一人に寄り添った教育ができる幸せを日々感じています。つくばみらいいきいきプランを推進し、バランスのとれたたくましい児童の育成を目指します。『みんなで創ろう楽しい学校』を合い言葉に、「チーム福岡」で誠心誠意教育活動に取り組んでまいります。



稲敷郡・木原小
木内敦子

明るく素直な子供たち、熱心で前向きな教職員、温かく協力的な保護者や地域の方々に囲まれ、創立一四二年の歴史と伝統ある木原小学校に勤務できる喜びと職責の重さを実感しております。「今日が楽しく、明日を

楽しみに待つことができる学校」を目指し、笑顔いっぱい・元気いっぱい取り組んでまいります。



稲敷郡・安中小
柴田博行

創立一四〇年目を迎える歴史と伝統のある美浦村立安中小学校に赴任し、喜びとともにその職責の重さを実感しています。

今年度の学校経営のテーマは「笑顔がいっぱい楽しい学校づくり」です。そのために児童一人一人を大切にされた教育活動を保護者の方や地域の方と共に全職員で取り組んでまいります。



稲敷郡・実穀小
山本光明

伝統ある実穀小学校で、明るく素直な子供たち、意欲ある教職員に出会えたことに、大きな喜びと感謝の気持ちを感じています。

保護者・地域の方々と共に、しっかりと未来を見据え、「子供が明日の学びを楽しみに待つ学校」づくりに全力で取り組んでいきます。



稲敷郡・君原小
白戸文男

創立一三九年の歴史と伝統のある君原小学校に勤務できたことに感謝するとともに、職責の重さを日々実感しています。

子供も教師も元気な学校、子供も教師も伸びる学校を合言葉に、学校教育目標の達成に向けて、学校・保護者・地域がチームとなり、信頼される学校づくりに全力で取り組みます。



北相馬・文間小
浅野恵次

目指す学校像「みんなが笑顔になれる文間小」に向けて、教職員全員が協働して保護者・地域に信頼される学校づくりに取り組んでいます。

いじめや仲間はすれのない、互いに認め合い、励まし合い、共に学び合い、「できた」「わかった」が広がり、児童の笑顔がふれる学校を目指します。



古河・古河三小
國府田薫

「めざす希望のひとつに心をみがき身をきたえ」校歌の一節です。これからの時代を生き抜く子供たちには、困難に立ち向かうことができる、たくましい心と体が必要です。

子供たちの健やかな成長を願い、教職員、保護者、地域が一体となって、全力で教育活動に取り組んでまいります。



古河・古河五小
佐山順一

休み時間、昔ながらのドッジボールで元気に遊ぶ子供たち。授業中、今どきのタブレット端末を簡単に操作する子供たち。いずれも本校の特色になっています。地元の学校に赴任した幸運を感じつつ、意欲的な教職員、協力的な保護者・地域の方々とともに、健やかな子供たちの育成に尽力したいと思います。

休みの時間、昔ながらのドッジボールで元気に遊ぶ子供たち。授業中、今どきのタブレット端末を簡単に操作する子供たち。いずれも本校の特色になっています。地元の学校に赴任した幸運を感じつつ、意欲的な教職員、協力的な保護者・地域の方々とともに、健やかな子供たちの育成に尽力したいと思います。

県西

- 古河市
- 結城市
- 下妻市
- 常総市
- 筑西市
- 坂東市
- 桜川市
- 結城郡
- 猿島郡



古河・古河七小
大森達也

明るく元気な子供たちといつも笑顔で熱心な教職員に囲まれ、日々楽しく勤務しています。子供たちの健やかな成長を願い、学校教育目標である『いきいき七小この育成』に向けて、「学力・規範意識・自己有用感」を合言葉に、全教職員一丸となって頑張りたいと思えます。



古河・下大野小
新谷 勝

元気なあいさつのできる子供たち、何事にも一生懸命な教職員、そして、協力を惜しまない保護者や地域の方々。歴史と伝統ある下大野小学校に勤務できる喜びと責任の重さを感じています。和を第一に考え、仕事に専念できる職場をつくり、子供たちの夢や希望を叶えるよう全力で取り組んでいきます。



古河・水海小
氏家真理子

着任した日、我が校のシンボル「ブーミンフラワー（桜）」が満開となり、美しい姿で出迎えてくれました。利根川の豊かな自然の岸辺に建つ学び舎で子供たちは、学びあい響きあいがら過ぎていきます。一人一人がより一層輝きを増すよう、校長として家庭・地域社会と協働した取組を推進してまいります。



古河・中央小
比企明郎

明るく元気いっぱいの四八五名の児童と情熱を持って職務に向かう教職員、熱い想いで応援してくださる保護者や地域の皆様に支えられ、喜びを胸に教育活動を展開しています。「夢はぐくみ、知・徳・体のバランスのとれた人間性豊かな児童の育成」を目指し、「チーム中央小」で取り組んでいきます。



古河・名崎小
小林正敏

「夢を追いかける 名崎の力は無限大!」。今年度のスローガンです。素直で、何事に対しても一生懸命な子供たち、学校への精一杯の支援を惜しまない保護者・地域の方々、前向きで、はつらつとした職員。それぞれの内に秘めた無限大の力を結集し、創立一四一年の歴史を超える学校をつくり上げます。



古河・釈迦小
小池宗一

創立一四三年を迎えた歴史と伝統のある釈迦小学校へ勤務できたこと嬉しく思います。協力的な保護者や地域の方々に支えられていると感じるにつれて職責の重さを実感しております。「心身共に活力に満ちた実践力のある児童の育成」を目指し、愛情と情熱をもって日々の教育活動に取り組んでまいります。



古河・小堤小
青葉正之

小堤小学校は、創立一二七年目を迎える「歴史と伝統」のある学校です。そして、校庭には大きな「しいの木」があり、遠い昔からいつも優しく子供たちを見守ってくれています。校風を生かし、児童が楽しく学び、教師が生き生きと取り組む学校を目指し「チーム小堤」で、心を一つにして頑張ります。



古河・下辺見小
深津恭子

素直で明るい子供たちと元気な教職員、そして協力体制のすばらしい保護者と地域の方々により、感謝の思いと共に、校長としての責任の重さを痛感しています。本校の校章でもある若竹のように、すすくと何事にも負けずに伸び行く子供たちの育成を目指して、全力で取り組んでまいります。



古河・大和田小
向原正博

創立一三九年の歴史と伝統のある大和田小学校に赴任し、身の引き締まる思いです。学校・保護者・地域が一体となって教育活動を進めている地域の学校です。八〇名の児童みんなが主役となり、輝くことのできる学校づくりを目指して邁進していく所存であります。



古河・三和北中
増田則康

元気な挨拶、明るい笑顔、そして真剣に聞く生徒や教職員の姿勢が、本校の最初の印象。校訓の「自主 向学 至誠」により、生徒の自主的自発的な行動力を伸ばし、一人一人の好奇心向学心を高め、創造力を育成していきたいと思えます。そして純朴に誠実に育ってきている生徒のよさを大切にしていきます。



結城市・城南小
根本忠継

明るく素直な児童と協力的な保護者、地域社会に支えられた城南小学校に勤務できる喜びと責任の重さを痛感しています。

「じょうぶな心と体 なんにでもチャレンジ」を合言葉に、全職員の総意を結集し、地域の宝である六五八名の子供たちの健やかな成長のために全力で取り組んでまいります。



結城市・江川南小
仁平康則

創立一四二年を迎える歴史と伝統のある江川南小学校に赴任できたことに大きな喜びと職責の重さを実感しています。

本校では、毎年地域の方々の協力のもと、特産の白菜作りを行っております。これからも学校・家庭・地域が三位一体となり、みんなが輝く、特色ある学校づくりに励みたいと思います。



下妻・騰波ノ江小
石塚昌義

豊かな自然と伝統、そして地域の人々の熱い情熱に支えられた騰波ノ江小学校に赴任し、喜びと同時に職責の重さを感じています。

「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる児童」の育成を目指し教職員、保護者、地域が一体となつての学校づくりを全力で推進してまいります。



常総・大生小
北嶋茂男

「未来にはばたく大生小学校」と、校舎屋上に掲げられたスローガン。地域の皆様の熱い思いが伝わり、重責痛感の思いです。

本校は昨年の水害で、甚大な被害を受けました。そのため、今年度は「復興」を合い言葉に教職員、保護者、地域が総力で輝かしい未来にはばたく子供たちを育ててまいります。



常総・大花羽小
蛸原浩一

創立一二七年目を迎える歴史と伝統のある学校に勤務できる喜びとともに、明るく元気な子供たちを前にして、校長としての責任の重さを強く感じています。地域の思いを大切に、子供が夢に向かって羽ばたけるよう「ほめて 認めて 励まして」を合い言葉に全職員一丸となり全力で取り組んでまいります。



結城市・絹川小
安達英明

明治六年創立という歴史と伝統を誇る絹川小学校に赴任し、その喜びとともに責任の重さを実感しています。

明るく素直な子供たちと、前向きで仲間意識の強い教職員、そして、本校をこよなく愛してくださる保護者や地域の方々との協働のもと、活力ある学校づくりに取り組んでまいります。



結城市・上山川小
猪野睦美

「雪裡梅花只一枝」これは、校長室に掲げている言葉です。私も学校経営の一つの指針として、大切にしていきたいと思ひます。

本校に隣接して、東持寺（通称「うめでら」）があります。春には児童たちと訪ね、言葉の意味を共に感じたいと今から楽しみにしております。



下妻・上妻小
池田浩一

保護者や地域との連携を大切に、幼稚園や特別支援学校等との交流も盛んな上妻小学校。改めて校長としての責任の重さを感じております。

本校には、「ケガナシ・事故ナシ・いじめナシ」の合い言葉があります。子供たちが安全で安心した学校生活が送れるよう全力で取り組んでまいります。



常総・五箇小
花ヶ崎圭一郎

素直な子供たち、やる気と活力に満ちた教職員、協力的な保護者や地域の方々に囲まれ、やりがいと職責の重さを実感しております。知・徳・体における「たくましさ」をキーワードに、小規模校のよさを生かしながら全職員一丸となつた学校経営の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

明るく素直な子供たち、前向きで親和的な教職員、そして、心温かく協力的な保護者・地域の方々。皆さんに支えられていることに感謝するとともに、職責の重さを痛感する毎日です。学校教育目標である「社会で必要とされる人づくり」の実現に向けて、一人一人が輝く活力ある学校づくりを推進します。



筑西・河間小
塚田 薫

地域に守られはぐくまれてい
る一六名の児童と共に、毎日
笑顔で生活しています。小貝川
と五行川に囲まれた河間小学校
は、平坦で肥沃な土地に立つ歴
史と伝統のある学校です。学校
教育に対する地域や保護者の期
待は大きく、責任とともにやり
がいを感じています。全職員で
「動く」をテーマに励みます。



筑西・上野小
中村 宏

明るく誠実な子どもたち、熱
意あふれる教職員、温かく、協
力的な保護者・地域の皆様方に
囲まれ、勤務できる喜びと職責
の重さを感じています。「青い空
輝く筑波夢 上野小」のスロー
ガンのもと、全校児童一〇九名
一人一人が輝く学校づくりを目
指して「チーム上野」として全
力で取り組んでまいります。



筑西・下館北中
菊池光彦

豊かな自然と歴史と伝統のあ
る下館北中学校に赴任し、喜び
と職責の重さを感じています。
「夢を持ち未来に向かって生き
る活力と創造力あふれる生徒」
の育成を目指して、全職員の力
を結集し、家庭・地域と協働し
ながら、この学校でよかったと
思えるような信頼される学校づ
くりに取り組んでまいります。



筑西・明野中
齋藤成美

名峰筑波を仰ぎ、広大なグラ
ウンド、木のぬくもりを感じる校
舎、新しい体育館など素晴らしい
環境をもつ明野中学校に赴任
できたことに喜びと責任の重さ
を感じています。
「文武両道」を合言葉に生活
する四六三名の生徒一人一人が
輝く学校を目指し、日々ステッ
プアップできるよう頑張ります。



坂東・七重小
内野宗長

七重小学校は、児童の優しい
笑顔と「おはようございます」
の温かい挨拶で一日が始まりま
す。児童が自分のよさや可能性
に気づき、一日一日を楽しみな
がら健やかな成長ができるよう
に、さらにこれからの社会を
担っていきける人になれるよう
学校、家庭、地域が連携して全
力で取り組んでいきます。



坂東・逆井山小
柴山聖徳

約八〇本の桜の木に囲まれた
創立一三七年目を迎える本校に
赴任させていただき、その責任
の重さを感じています。「すべ
ては子どもたちのために」を合
い言葉に、子どもたち一人一人
が輝く学校づくりを保護者、地
域の皆様のご協力をいただきな
がら、教職員一丸となって取り
組んでまいります。



坂東・内野山小
田辺光博

素直で明るい四五名の子供た
ち、誠実で力のある職員、協力
的で頼もしい保護者・地域の
方々との出会いに感謝しており
ます。学校・家庭・地域が一体
となって創る「今日が楽しく、
明日が楽しみな内野山小学校」
を合い言葉に、「チーム内野山」
として、全職員一丸となって取
り組んでまいります。



坂東・東中
飯塚英一

明るく温かな生徒と、積極的
に関わってくれる先生方、協力
的な保護者の皆様や地域の方々
に支えられながら、日々感謝と
共に職責の重さを痛感していま
す。生徒一人一人の夢の実現を
支援しながら、「東中で学んで
よかった」と思える学校を目指
し、チーム東中の力を結集して
全力で取り組んでまいります。



坂東・南中
霜田幸男

本校は「認め合い 高め合い
ともに輝く南中」をスローガン
に、生徒会を中心として生徒の
自主性・自立性を引き出し、自
己有用感を高める教育を推進し
ています。「役割と賞賛が人を
育てる」を信念に、学校・家庭・
地域の連携を図りながら、「魅
力ある学校づくり」に全力で取
り組んでいきます。



桜川・大國小
平子剛之

大國の大地に生まれ、心身共
にたくましく成長している子供
たちと触れ合うたびに、嬉しさ
とともに、未来を担う人材を育
てる責任の重さを痛感しており
ます。人としての根幹を太くし
て、どんな課題にも、自立と協
働、そして創造により解決して
いける人づくりを、職員と一丸
になって推進してまいります。



桜川・紫尾小
鶴見 正

筑波山の麓、校内を川が流れる自然豊かな学校です。休み時間には川で魚とりをする児童の歓声が響き渡ります。平成三〇年には、義務教育学校となり、本校はあと二年で閉校となりま



桜川・樺穂小
平根伸二

筑波山、加波山の山並みを一望できる自然豊かな環境の中、校庭のシンボルツリー「きささぎ」に見守られながら教育活動が展開されています。保護者・地域の願いを受け止め、一人一人の児童を大切に、「学校が楽しい、明日も来たい」と思える信頼と魅力ある学校づくりを進めていきたいと思



桜川・大和中
齊藤洋子

美しい校舎で、素朴で素直な生徒と触れ合える毎日に喜びを感じる。同時に、礼儀正しい未来ある生徒を前にして、校長としての重責を強く感じております。キーワード「step up together」のもと、生徒も教職員もそして自身も「共に前進を！」を目指し、一人一人が輝く活力ある学校づくりに全力で取り組んでまいります。



結城郡・安静小
石津光彦

創立一四二年を迎える歴史と伝統ある安静小学校で、明るく素直な子供たち、直向きにその子供たちを支援する職員や保護者・地域の皆様に囲まれ、学校経営ができる喜びと責任の重さを感じております。一刻も早くこの新天地に親しみ、児童一人一人を大切にしたいと願っています。



結城郡・下結城小
大澤敦子

校長として勤務して一か月半。今の私の心は「感謝」の二文字でいっぱいです。元気で素直な子供たち、全力で指導にあたる教職員、学校のために協力を惜しまない保護者・地域の方々。地域の宝である子供たちのために、「チーム下結城」の組織を生かし、信頼される学校づくりに協力していきます。



結城郡・川西小
飯泉智那美

一九名の新人児のために三〇余名の来賓が出席してくださった入学式。地域の温かい支援で支えられていることを実感したスタートでした。職員と児童の合言葉「あいさつ・そうじ・思いやり」を継承しつつ、川西小学校のすべての人々が更に笑顔いっぱいになるように、日々取り組みでいきたいと思



結城郡・東中
白石光浩

創立四九年目を迎えた歴史と伝統のある東中学校に赴任し、喜びと職責の重さを実感しています。「文武両道 輝く東中」を合言葉に、生徒・保護者・地域・職員が一体となり、「大志をもち心身ともにたくましい生徒の育成」を目指しています。一〇月には新校舎が完成し、新たな歴史を刻んでいきます。



猿島・五霞東小
木村 靖

明るく素直な子供たち、努力を惜しまない教職員、協力的で温かく子供たちを見守っていただけの保護者や地域の方々を迎えられ、喜びとともに、職責の重さを感じています。学校教育目標の「夢を育み、元気なあいさつと明るい笑顔にあふれた学校」を目指して、教職員一丸で取り組みでいきます。



猿島・長田小
山口英司

明るく素直な二五三名の子供たち、協力的な保護者や地域の方々、意欲的に取り組む教職員に囲まれ、伝統ある長田小学校で勤務できる喜びと職責の重さを痛感しています。子供たち、地域の方、教職員誰にとっても「楽しい学校」になるよう、チーム長田として全力で取り組んでいきます。



猿島・境二中
今納くに江

正門から続く境二中のシンボルであるケヤキ並木と緑豊かな環境。素直で落ち着いた生活を送る生徒の姿。本校に勤務できる喜びとともに、校長としての責任を痛感する毎日です。今年度は、「進取・挑戦」を合言葉に、生徒も教職員も充実した、明るく活力のある学校づくりに取り組んでまいります。

再任会員名簿

14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
鉾田市	北茨城市	常陸太田市	日立市	東茨城郡	小美玉市	ひたちなか市	水戸市	三の丸小	小川南中	大島中	第二中	緑岡小	小島睦	郡市名
鉾田南中	精華小	水府中	太田小	助川中	大久保小	宮田小	南中	常北中	皆藤正造	廣瀬佳久	永田博	鬼澤真寿	三の丸小	学校名
石崎千恵子	関辰洋	長岡勝典	石川八千代	鈴木洋一	大沢靖司	及川謙治	加茂川くるみ	片山聡彦	皆藤正造	廣瀬佳久	永田博	鬼澤真寿	小島睦	氏名

27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	No.
坂東市	常総市	下妻市	結城市	古河市	稲敷郡	土浦市	石岡市	石岡市	土浦市	行方市	潮来市	牛堀小	郡市名
岩井第二小	石下小	下妻中	結城南中	古河第二中	駒羽根小	阿見中	千代田中	石岡中	真鍋小	北浦中	北浦小	志村一	学校名
森甚二	猪野木雅明	鈴木悟	黒田光浩	稲村裕司	米山正彦	青山晴美	井坂庄衛	富田英次	江原保子	横田英一	川尻政利	志村一	氏名

(敬称略)



小島睦 田邊一男 高田和信 櫻村毅 立野健二 佐藤和男

- 会長 田邊 一男(水・第一中)
- 副会長 小島 睦(水三の丸小)
- 副会長 櫻村 毅(太・大田中)
- 副会長 立野 健二(神・息栖小)
- 副会長 高田 和信(稲郡・阿見小)
- 副会長 佐藤 和男(筑・下館中)
- 監事 川井 洋子(水・稲荷一小)
- 監事 井上 敏行(太・金砂郷小)
- 監事 金田久美子(潮・潮来小)
- 監事 黒澤 明良(土・土浦小)
- 監事 小嶋 清志(妻・総上小)

平成二八年度 学校長会役員

ご逝去を悼む



平成二八年 四月二〇日 城小 校長 金澤 久美子先生がご逝去されました。

金澤先生は、茨城県女性校長 教頭会幹事をはじめ、平成二六年 文部科学大臣「創意工夫育成功労学校賞」受賞に寄与されるなど、本県教育の推進に多大な 貢献をされました。ここに惜春の意を表すとともに、謹んで金澤先生のご冥福をお祈りいたします。



平成二八年 四月二四日 日立市立河原 子小学校長、 萩谷幸次先生 がご逝去されました。

萩谷先生は、四月に河原子 学校に赴任され、子どもたちへの 思いを新たに、使命感に燃 えて校長としての第一歩を踏み 出したところでした。また、子どもたち一人一人に 寄り添い、「生きる力」を育ん で行くことを決意した矢先の旅 立ちでしたので、無念であった ことと思います。謹んで、萩谷先生のご冥福を お祈りいたします。

編集後記

一三二名の新会員を迎え、二八年度の教育活動が順調にスタートしています。

おかげさまで今年度の第一号が発行の運びとなりました。今号には第2期中期教育ビジョン(三か年活動計画)を掲載しました。今後の活動の参考にしていただきたいと思います。年度始めの御多忙の中、原稿をお寄せいただきました皆様から感謝申し上げます。

- 理事 鈴木 一司
- 事務局長 関 晃
- 主幹(校長会担当) 大内 雅司
- 主幹(研究会担当) 長澤 洋子
- 主幹(教育センター担当) 石島久美子
- 主幹(教育センター・研究会担当) 砂押 有香
- 主事(校長会・研究会担当) 砂押 有香

茨城県教育研究会坂本瑞主幹が三月三十一日付で退任、四月一日付で大内雅司主幹就任。

平成二八年度事務局職員